

公財) PMF 組織委員会 御中

第 28 回パシフィック・ミュージック・フェスティバル2017
来場者調査 報告書

2017 年 12 月

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
研究員 宮部潤一郎

目 次

1. はじめに	1
2. 調査実施及び回収状況	1
2-1) 調査内容と調査票	
2-2) 調査実施コンサートと回収状況	
3. 集計結果分析その1 札幌開催演奏会	3
4. 集計結果分析その2 アウトリーチ・コンサート	22
5. 集計結果分析その3 道内演奏会	26
6. 集計結果分析その4 東京・川崎演奏会	29
7. まとめ 2017年調査から得られる示唆と考察	32
付属資料 2017年調査 調査票	33

1. はじめに

PMF 演奏会来場者を対象としたアンケート調査は、2014 年に北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の学生プロジェクトチームによって実施されて以来、本年で 4 回目の実施である。時系列の比較が可能となる調査内容として実施することを意識しつつ、本年はアウトリーチ・コンサート、札幌以外の道内で開催された公演や東京・川崎公演を対象とした調査を実施した。実施に当たっては PMF 組織委員会の協力と支援を得たが、本報告書は北大研究員としての宮部の責任でまとめたものである。したがって、以下の分析結果の解釈や結果に基づく考察は宮部のもので、PMF 組織委員会のものではない。

このアンケート調査の結果から、長くこの教育音楽祭を存続させていくために、今何をするべきかを考え、実行していく際に参考とすべき多くの示唆が得られたと考えている。

演奏会の際に調査へのご協力をいただいた多くの方々に、心から御礼を申し上げる次第である。

2. 調査実施及び回収状況

1) 調査内容と調査票

札幌公演の調査では 2014 年～2016 年の調査との時系列比較を可能とする質問項目を中心とした。また、道内公演での調査では、各会場の事情に合わせて追加の設問を設けている。

また、札幌市内各所で実施されたアウトリーチ・コンサートでは簡易版の質問票を用いて、札幌公演の調査票と共通の質問項目を設けた。

調査票は各会場入り口で配布し、回収は会場内に設置した回収箱で実施した。

2) 調査実施コンサートと回収状況

札幌公演における調査実施コンサートは 6 公演とした。2017 年の調査対象コンサートは以下の通りである。

PMF2017 アンケート調査 回答数

札幌公演

日付	公演名	配布数	回答数	回答率	備考
7月11日 (火)	バーンスタイン・レガシー・コンサート	855	448	52.4%	
7月15日 (土)	PMFオーケストラ演奏会 プログラムA	834	387	46.4%	
7月16日 (日)	PMFオーケストラ演奏会 プログラムA	825	384	46.5%	
7月23日 (日)	PMFオーケストラ演奏会 プログラムB	1,177	540	45.9%	
7月25日 (火)	オーブンドア・コンサートⅢ	253	206	81.4%	
7月30日 (日)	ピクニックコンサート	2,285	744	32.6%	
		6,229	2,709	43.5%	

道内公演

日付	公演名	配布数	回答数	回答率	備考
7月24日 (月)	PMFアメリカ演奏会 函館公演	602	271	45.0%	
7月27日 (木)	PMFオーケストラ演奏会 苫小牧公演	1,031	203	19.7%	チケット一部払戻あり
		1,633	474	29.0%	

東京公演

日付	公演名	配布数	回答数	回答率	備考
7月31日 (月)	PMFオーケストラ演奏会 川崎公演	1,241	80	6.4%	
8月1日 (火)	PMFオーケストラ演奏会 東京公演	1,564	300	19.2%	
		2,805	380	13.5%	
総計		10,667	3,563	33.4%	

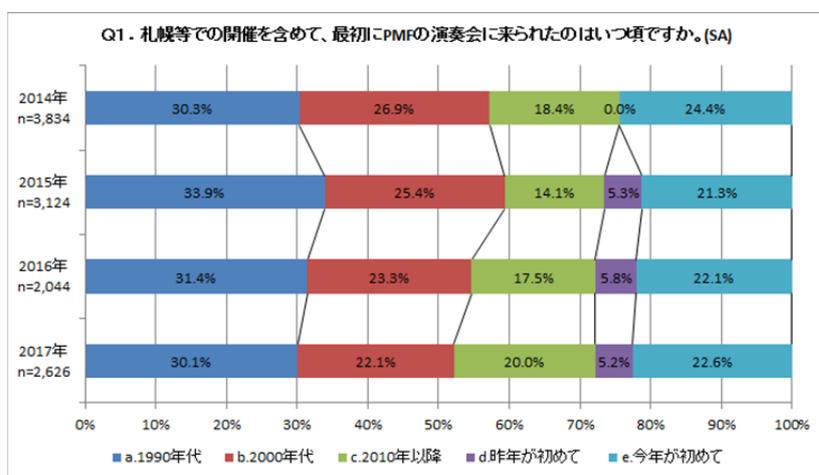
アウトリーチ・コンサート 調査実施状況

開催日	開催場所	回収数
5月18日	チカホ①	228
5月26日	東急	48
5月27日	新さっぽろ①	88
5月28日	新さっぽろ②	37
6月11日	イオン発寒	45
6月17日	イオン苗穂	60
6月20日	チカホ②	129
7月24日	チカホ③	270
有効回答		905
白票		7
合計		912

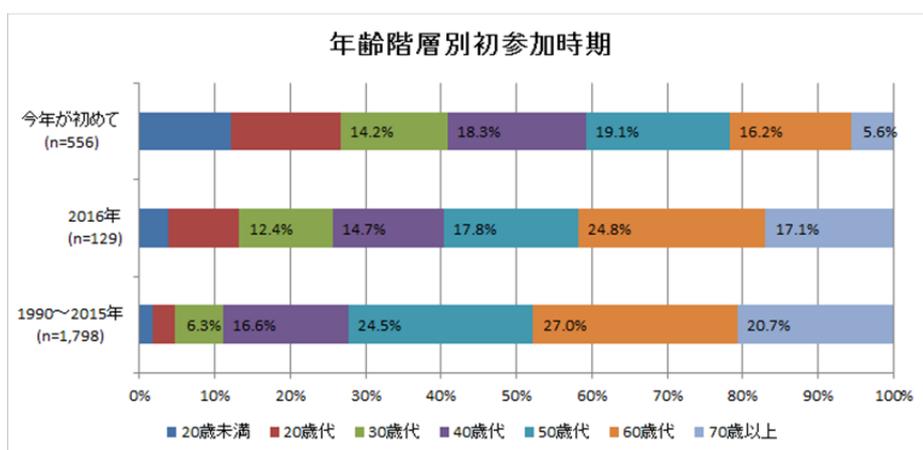
3. 集計結果分析その1 札幌開催演奏会

3-1 初来場時期

PMF 演奏会への初来場時期を尋ねた設問で、2014 年調査から継続している設問である。“昨年初めて”と“今年が初めて”が毎年 27%程度を占めている。長く PMF 演奏会に来られている方とともに、毎年新たに PMF に接する来場者を獲得できていることが確認できる。第 1 回から 28 年の時間が経過し、90 年代からの参加者が相対的に少なくなるのは当然のこととしても、初来場が 90 年代との回答が 3 割を占めることは、長期間にわたってサポートする来場者が少なくないことを示している¹。同時に 2000 年代、2010 年代に初来場で、今年も来場された方が中核を占めていることを確認しておきたい。

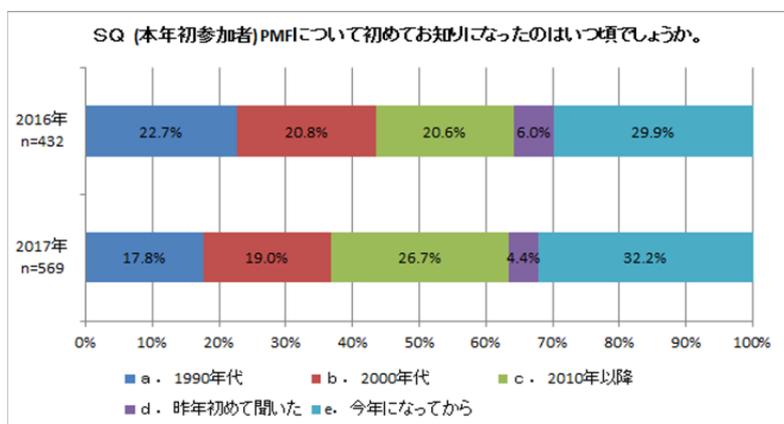


初来場時期を年齢階層別に見ると、今年初めて来場とする回答のうち、40 歳代以下の年齢層が 6 割を占めている。今後長期にわたって関心を寄せる可能性のある人たちが来場している。

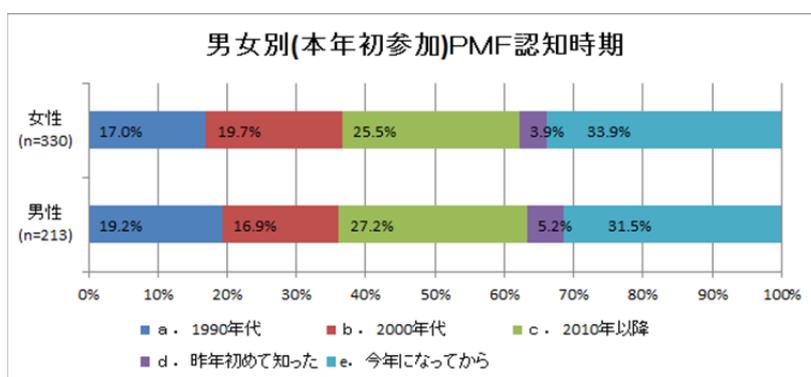


¹ 2015 年～16 年、2016 年～17 年の 1 年毎の構成比率の差の検定では、有意とは判断されない。1990 年代に初来場の構成比では、2015 年～2016 年 p 値=0.061、2016 年～2017 年 p 値=0.322 だが、2015 年～2017 年では p 値=0.002 となり有意水準 5% で有意である。2000 年代に初来場でも同様の結果である。したがって、来場者の構成は徐々に変化している。

2016年より、Q1のサブクエッションとして、本年初来場者がいつからPMFを知っていたかを尋ねた設問を設けている。



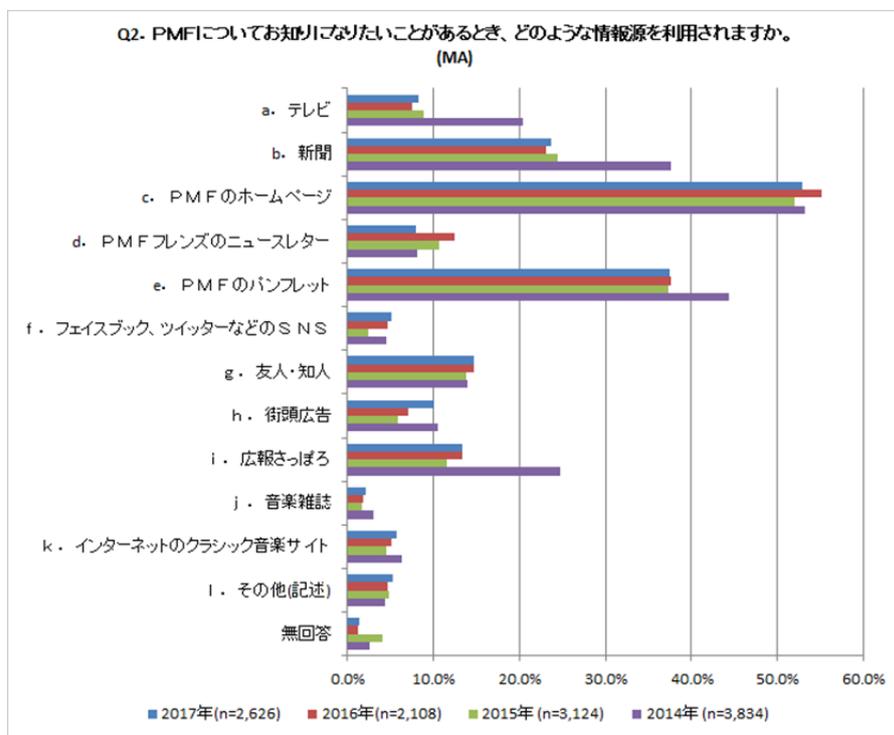
本年初来場であっても、長くPMFの存在を認識している人が多い。昨年の結果と比較しても2010年以降に知った人がやや多くなっているが、構造的な変化ではない。今年になってからPMFを知った人が3割程度であることから、認知が直ぐに来場には結びつかない状況が推察される。地道で継続的な情報発信が必要ということであろう。



男女別の認知時期では全体の傾向に大きな差は無く、最近になってPMFの存在を知り来場された方は37%程度で6割強は以前からご存じではあったが、何らかの理由で来場できなかった、あるいは来場のきっかけが無かったということである。

3-2 情報源

PMF に関する情報源としてどのような媒体を利用するかを尋ねた設問である。

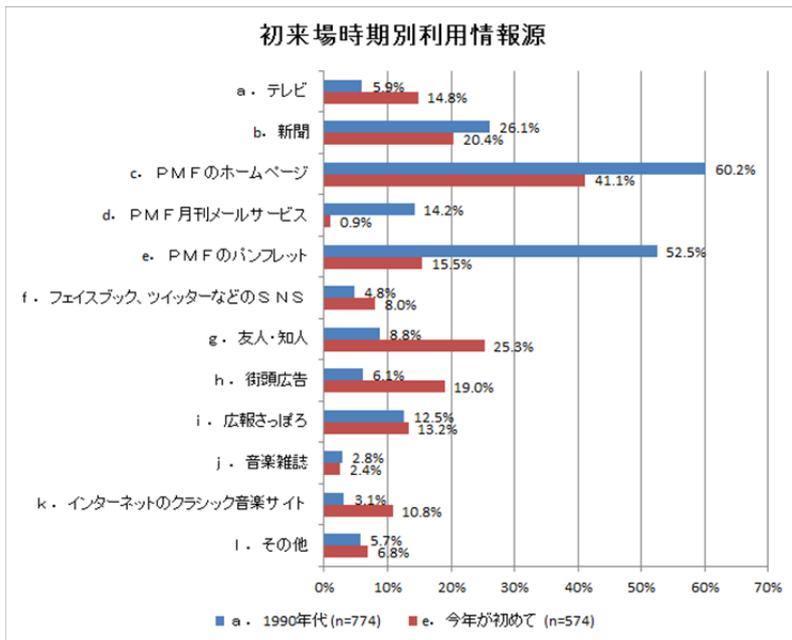


2014年は25周年記念のアニバーサリーイヤーであったため、メディアへの露出も多く、その結果マスメディアと広報さっぽろの比率が高くなったと考えられる。2015年以降2017年までの結果には大きな変化は無く、演奏会来場者の情報収集行動の姿を示している。

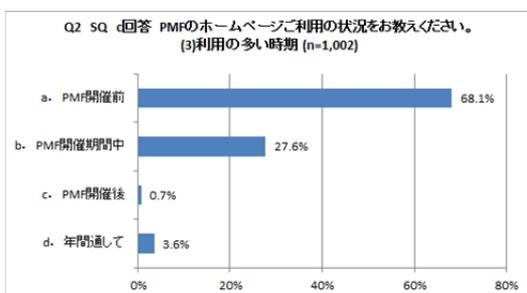
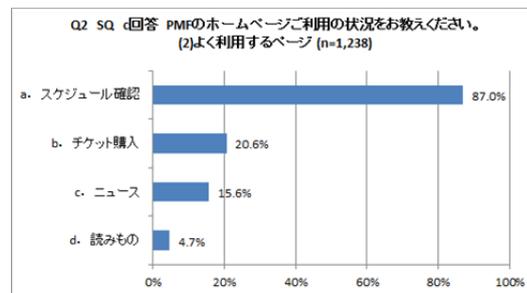
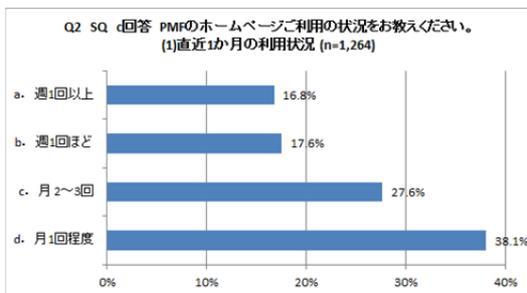
そうした中、2017年の「街頭広告」が2014年と変わらない比率を示している²。2017年には大通駅壁面広告、JR札幌駅ピラービジョンでの展開や地下鉄ハーフジャック（地下鉄の一編成全車両内の片面全ての広告スペースで展開）など、これまでになかった試みが行われたことで、多くの人の目に触れたためと考えられる。

これまで複数年PMF演奏会に来場されているグループと本年初めて来場のグループを比較すると（次ページに図を掲載）、情報収集活動に顕著な違いを確認できる。すでにPMF演奏会への来場経験があると、必要な情報の所在がどこかが分かっているため、公式サイトとパンフレットへの依存が高くなっている。一方、本年初めて来場のグループでは友人・知人を含む多様な情報源が利用されている。

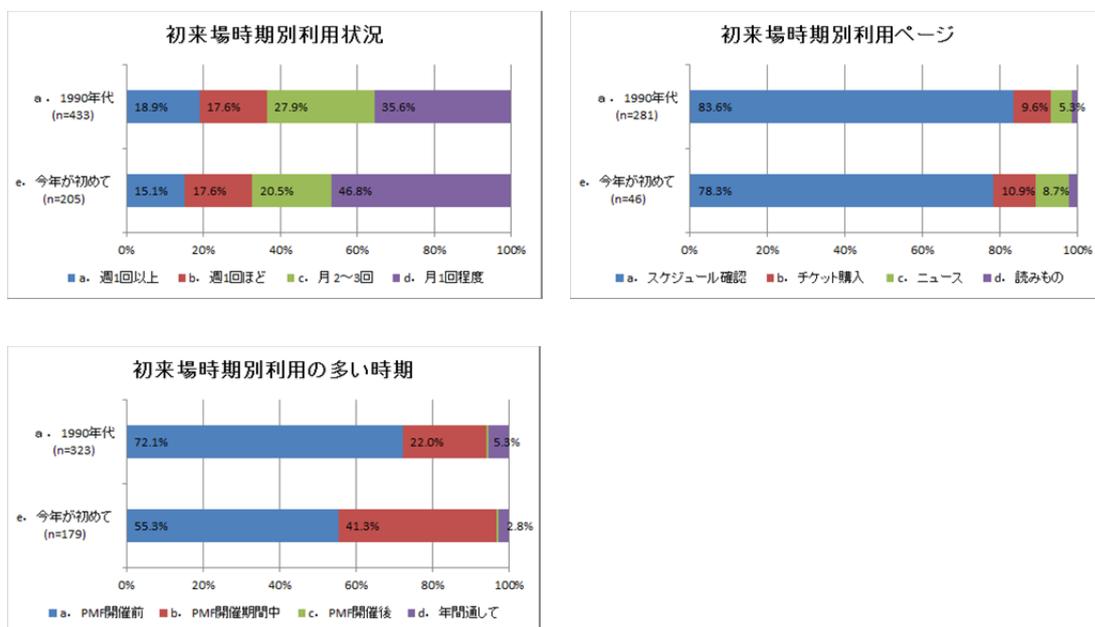
² 2014年と17年の比率の差の検定 p値=0.542。しかし、2014年と2015年ではp値=0.000で有意。



今回、Q2のサブクエッションとして公式サイトを情報源と回答したグループに利用の詳細を尋ねた。全体的な傾向は、月1～3回程度の利用でスケジュール確認を目的とし、開催前の時期によく利用、が典型的な利用状況である。ただし、それほど多くは無いが、年間を通しての利用や、頻繁にアクセスしてニュースや読み物に目を通す利用者が存在することは留意しておきたい。

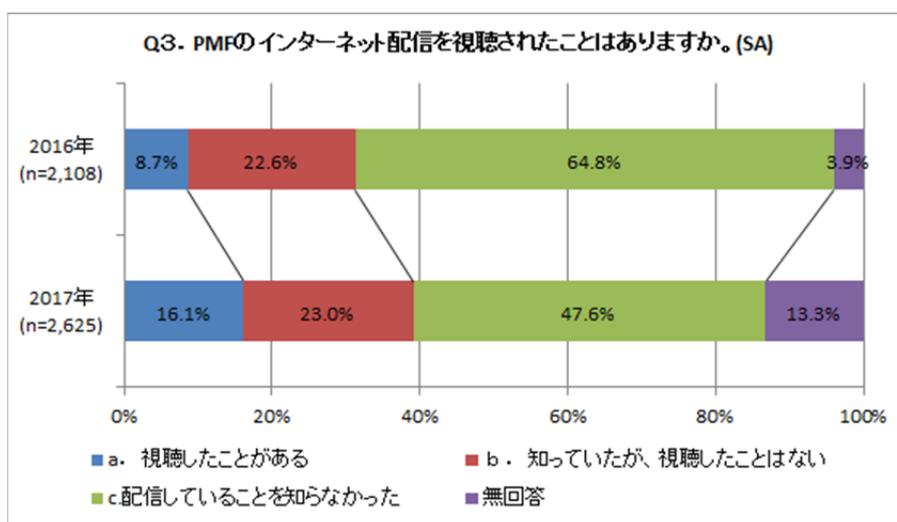


公式サイトの利用状況を、初来場時期別に見た結果が下図である。複数年の来場経験のあるグループは、利用頻度がやや高く、スケジュール確認を目的とし、開催前に利用が集中する傾向である。一方、初来場のグループでは開催期間中の利用が多くなっている。



3-3 PMFの映像・録音のインターネット配信について

2016年より演奏会の映像や録音の本格的なインターネット配信を開始しているが、その認知度合や利用状況を確認した設問である。

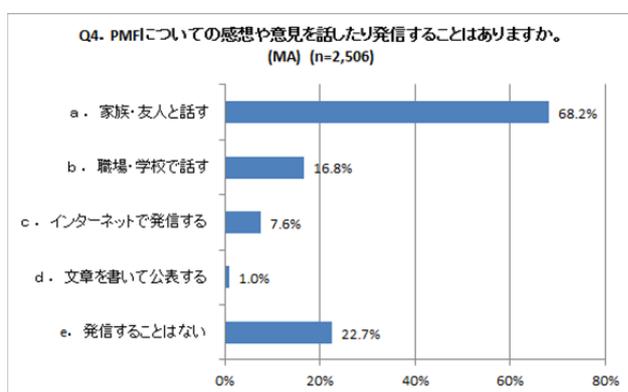


インターネット配信による演奏会の映像録音の提供は、2016年の調査結果と比較して、全体的に認知度が上昇し視聴経験者も増加している状況を確認できるが、一方で配信していることを知らなかったとする回答が大幅に減少したとはいえ、回答者の半数近い率となっている。実際に視聴したことがあるとする回答の比率が伸びていることから、順調にサ

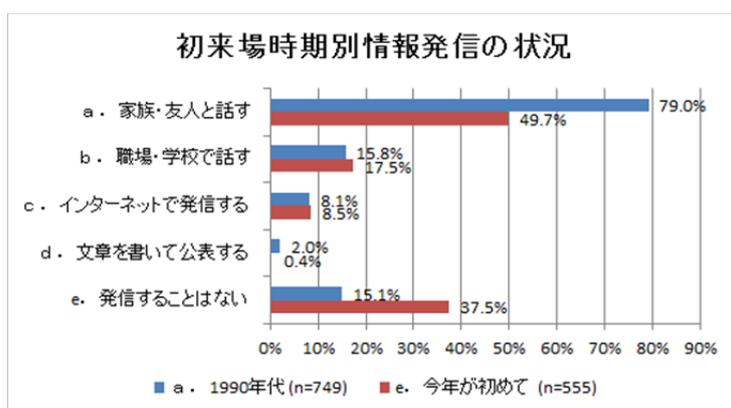
ービスが根付いていると言って良い。しかし、2017年でもなお半数近い回答者が知らなかったと回答していることから、サービス提供の周知を継続していくことが必要であろう。

3-4 PMF に関する情報発信

来場者が PMF について話題にしたり意見交換するなど、何らかの情報発信をしているかどうかを尋ねた設問である。PMF が長く継続して開催されるための一つの条件として、幅広く来場者や市民・道民に支持されていることが必須であると考えられる。そのことの一つの側面として、多くの人々が話題にしている状況を考えることが出来る。ここで確認しているのは、そのような活動の具体的な場面である。



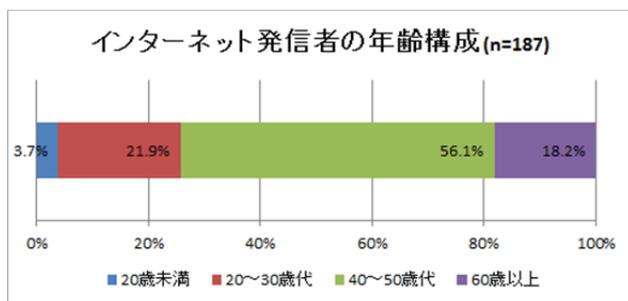
8割近い回答者が何らかの形で PMF を話題にしている。家族、友人の比較的閉じた関係の中でのコミュニケーションが過半だが、職場・学校で話題にする、さらにインターネットで発信というコミュニケーション活動も見られる。ここで“インターネットでの発信”の内容を詳細に把握することは行っていないが、SNSでのメッセージ発信が含まれると解釈されたと思われる。そうであるとすると、メッセージの拡散の範囲が格段に広がることから、発信の持つ意味が質的に変化していると言えよう。



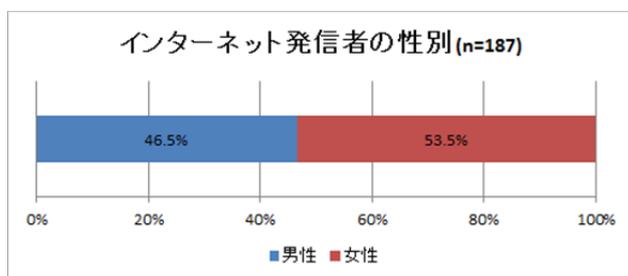
初来場時期別に情報発信の状況を見た結果が上図である。今年が初めてのグループによる発信の範囲が家族・知人に集中している状況が顕著だが、インターネットでの発信が 1990

年代から参加のグループとほぼ同水準である点に注目しておきたい。インターネットによる発信行動に関しては、初来場時期に関わらず一定のメッセージ発信が行われている。

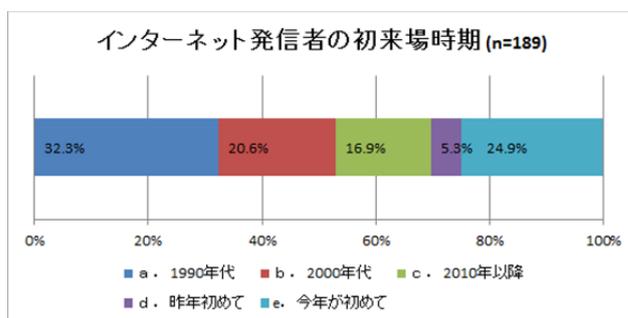
インターネットによる発信に関して、発信者のプロフィールを以下に見ておこう。



年齢構成は40~50歳代が56%と半数強を占めている。フェースシートの集計結果ではこの年齢層は40%を占めていることを勘案すると、積極的なメッセージ発信がこの年齢層によって行われていると言えよう。



インターネット発信者の男女別比率ではフェースシート集計に見る全体傾向と変わりなく、女性がやや多くなっている。

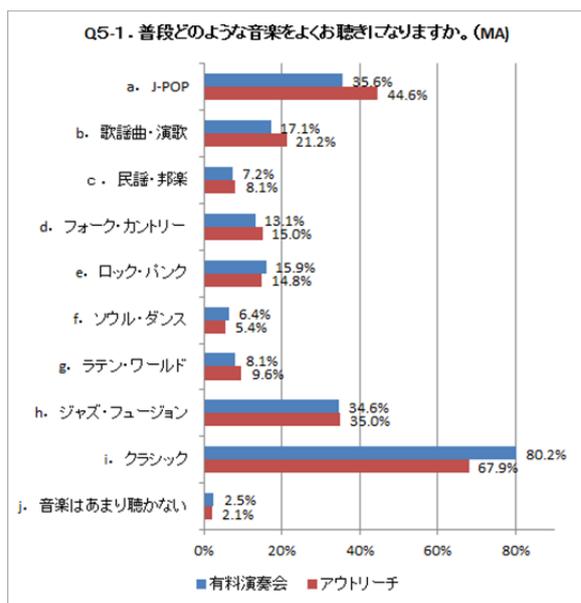


初来場時期では、3-1で整理した全体傾向と大きくは変わらず、インターネットによる発信行動に関しては演奏会への来場というPMFへの直接的な参加の長さに関わりなく、一定数の活動がある。

3-5 音楽との関わり

この設問は、演奏会来場者の音楽とのかかわりに関するバックグラウンドを理解するために、本年の調査で新たに設定した設問である。この設問は同時に、今年の調査で初めて実施した札幌市内各所で実施されたアウトリーチ・コンサートでの調査との共通の設問として、比較検討を可能とした。

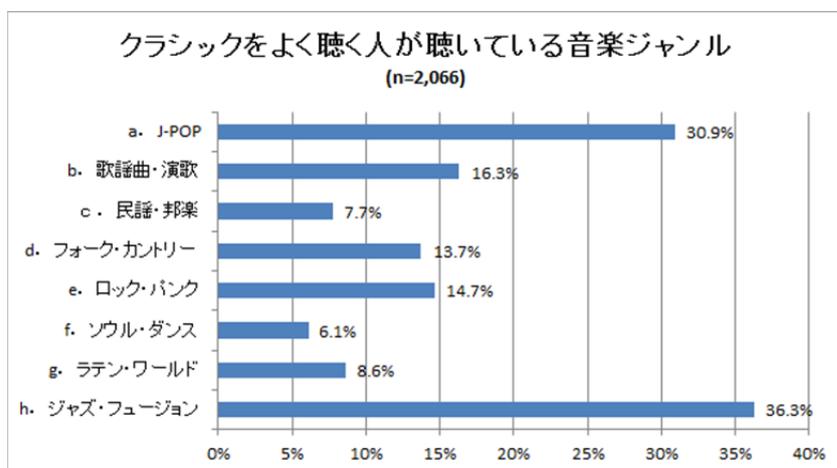
(1) 普段良く聴く音楽ジャンル



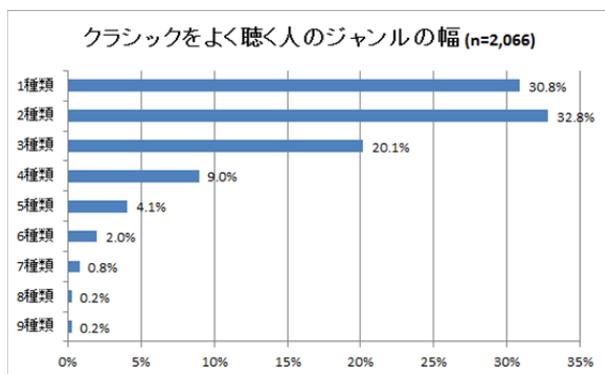
演奏会来場者がクラシック音楽をよく聴くと回答することは容易に想定できるが、同時に他のジャンルの音楽も幅広く聴いていることを確認できる。この設問で選択肢として設定した9ジャンルについて、回答には相当の幅があるものの、幅広く様々な音楽ジャンルを楽しんでいる。

演奏会とアウトリーチではクラシックをよく聴くとの回答比率に12ポイントほどの差が見られるが、それ以外は全体傾向には大きな違いは見られない。

以上は一般的な傾向だが、クラシックをよく聴くと回答したグループに注目して、他にどのような音楽ジャンルを聴いているかを整理したものが下図である。J-POPが31%、ジャズ・フュージョンが36%と、クラシックをよく聴くグループの3割を超える人たちがこの二つのジャンルの音楽を楽しんでいる。また、選択肢として提示した全ての音楽ジャン



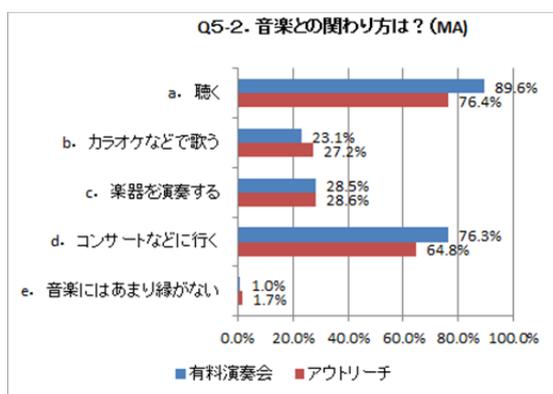
ルが、比率の高低はあるが、選択されている。クラシックをよく聴く人たちが同時に様々な音楽を享受している。



クラシックをよく聴くグループのジャンルの幅を確認した結果が上図である。これによるとクラシックのみをよく聴くとの回答は約3割に止まり、約5割はクラシックを含み2種類ないし3種類の音楽ジャンルを聴いている。ごく少数ではあるが8種類、9種類と大変幅広く様々な音楽ジャンルを聴いている人も存在している。

(2) 音楽との関わり方

自ら演奏するなどの音楽との関わり方に関する設問である。



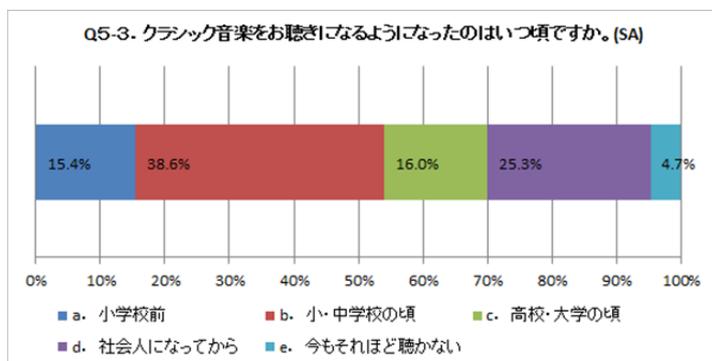
演奏会来場者が、“聴く”、“コンサートに行く”という形での関わりの比率が、アウトリーチ・コンサート参加者より10ポイント高い結果である。一方、「歌う」という行為での音楽の楽しみ方では、若干であるがアウトリーチ・コンサート参加者の方が高い³。

³ P値=0.012で5%有意水準で有意。

(3) いつからクラシック音楽を聴くようになったのか

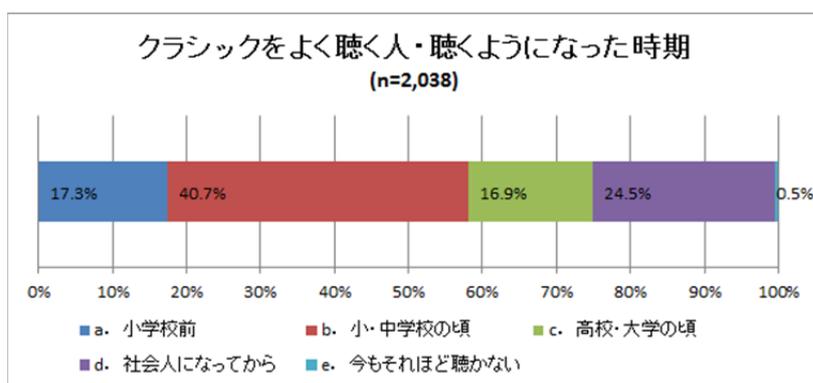
設問(3)、(4)は紙面の都合でアウトリーチ・コンサートの調査票には含めていない。

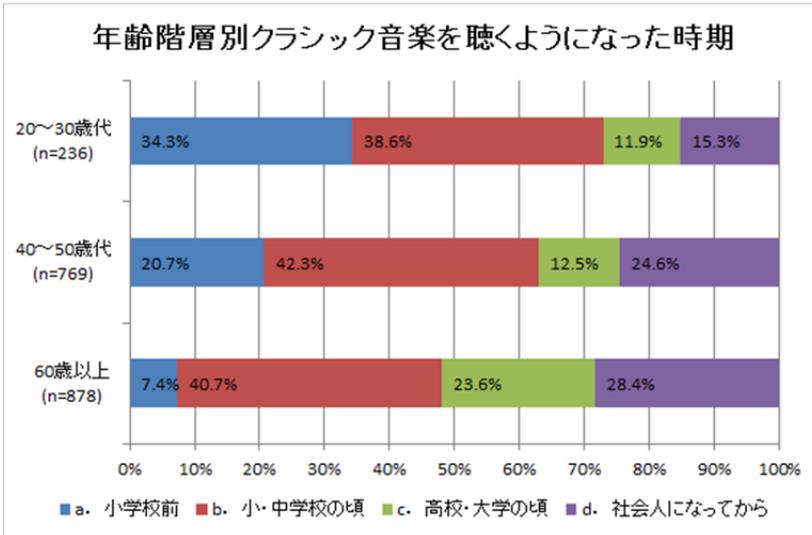
下図の集計では、設問(1)でクラシックをよく聴く音楽ジャンルとして選択しなかった回答者も含めている。



全体的な傾向では、5割を超える回答者が中学校までにクラシック音楽を聴くようになったと回答している。このことから、小学生を対象としたリンクアップ・コンサートの意義が大きいことを確認できる。一方、社会人になってからとする回答が25%あり、成人後の人たちへの働き掛けもクラシック音楽を馴染みのあるものにする、またPMFの応援団を維持強化していくという点で意味あることである。

次に、クラシックをよく聴くグループで見ると、下図のとおり、上記の傾向がさらに強まって、中学校までの回答が58%である。しかし、高校・大学の頃が17%、社会人になってからが25%と全体傾向とほぼ同一の結果となっている。

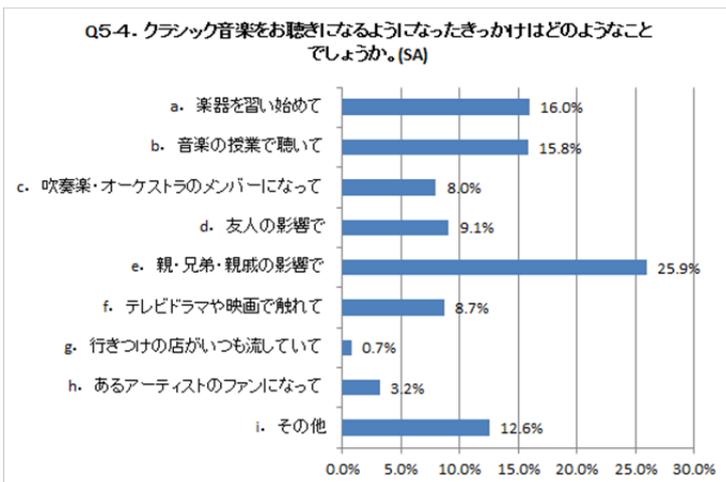




次に回答者の年齢階層別にクラシック音楽を聞くようになった時期を見る。上記のとおり、年齢層によって明らかな傾向が認められる。年齢層が上がると中学校までの回答が減り、特に小学校前は34%から7%と大幅に減少し、一方で社会人になってからは15%から28%に増大している。今後もこの傾向が続くとすると、リンクアップ・コンサートをはじめとする若年層への継続的なアプローチが、クラシック音楽への接近を促し、ひいてはPMFへの関心と参画へ誘うことにつながっていくと考えられる。

(4) クラシック音楽を聴くようになったきっかけ

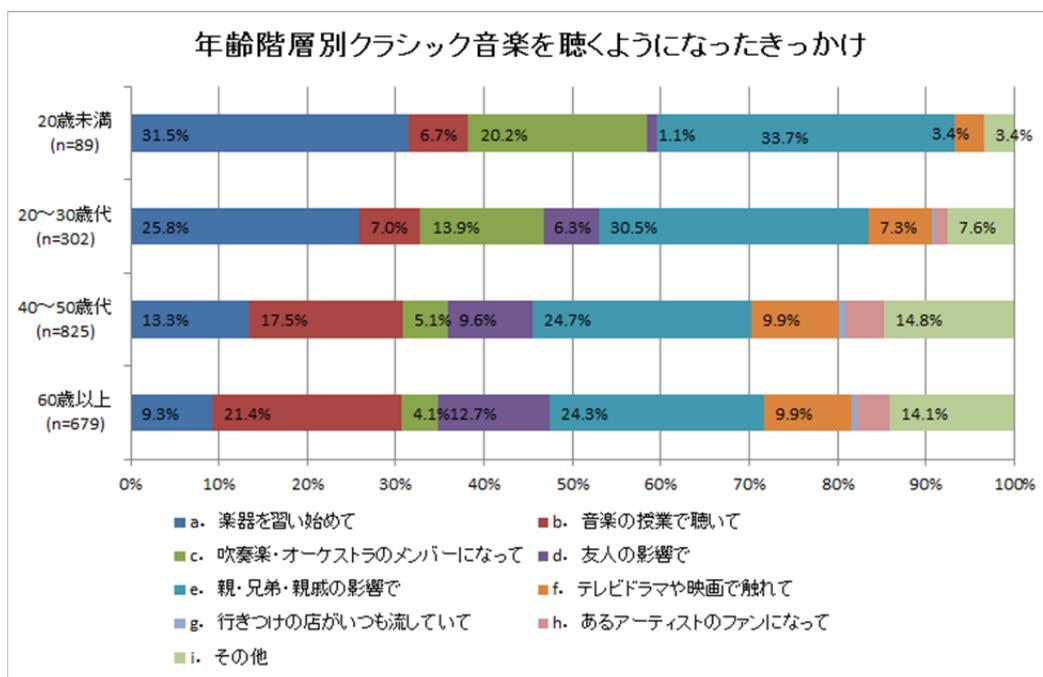
設問(4)はクラシックを聴くようになったきっかけを尋ねている。ここでも集計対象は回答者全員である。



親・兄弟・親戚という近い人の影響が26%で最多で、以下、楽器を習い始めて、音楽の授業で聴いて、が続いている。吹奏楽やオーケストラのメンバーになってという回答も

8%あることから、実際に自ら楽器を演奏するようになったことがきっかけとする回答は24%で、親兄弟の影響とあわせてほぼ半数のきっかけとなっている。

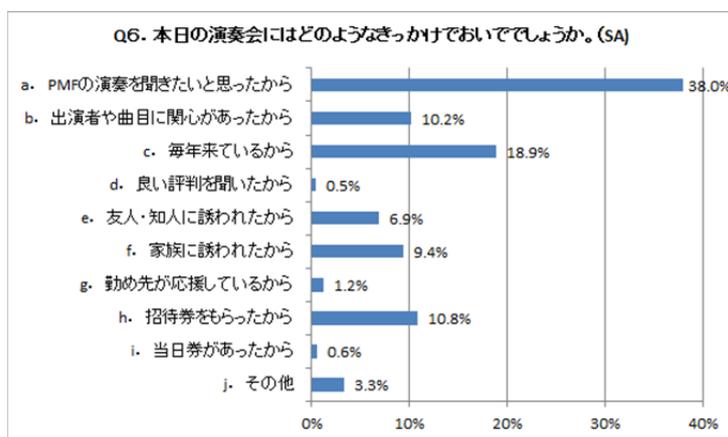
この結果を回答者の年齢階層別に整理した結果が下図である。ここでも年齢階層によっ



て一定の傾向が認められる。すなわち、若年層ほど楽器に触れることが直接的なきっかけとなっていること、年齢が上がるにしたがって多様なきっかけが認識されていることである。

3-6 演奏会来場理由

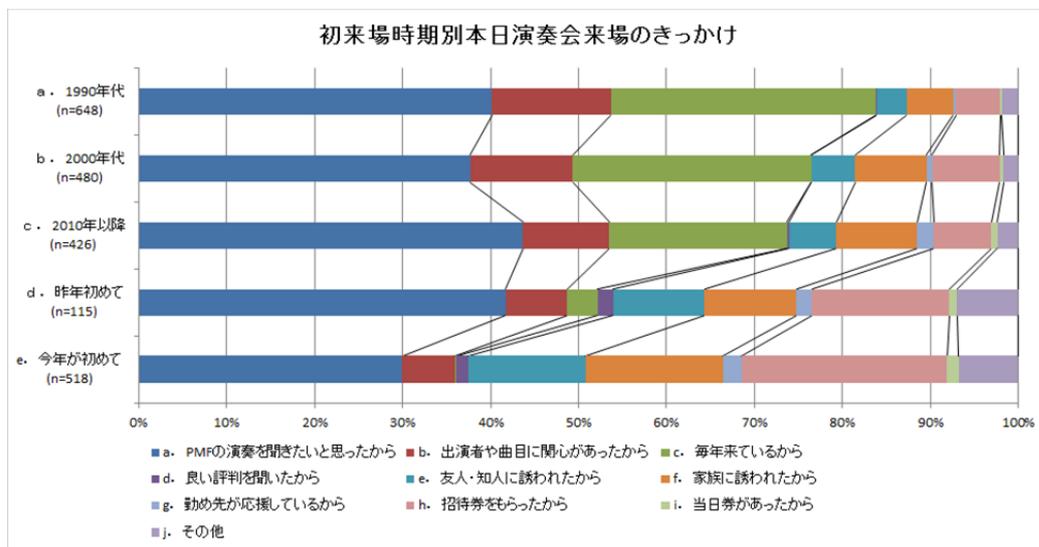
この設問では「本日の演奏会には」という尋ね方で来場のきっかけを聞いている。



全体傾向は、「PMFの演奏を聞きたい」、「毎年来ているから」が「出演者や曲目に関心」を大きく上回っている。特定の曲目や演奏者という個々の演奏会のプログラム内容よりも

PMF だからという理由が認められ、来場者の中で PMF が定着していることをうかがわせる結果である。また、「友人・知人に誘われて」、「家族に誘われて」という受動的な理由による来場はいずれも 10%以下で、全体傾向の中ではそれほど多くは無い。

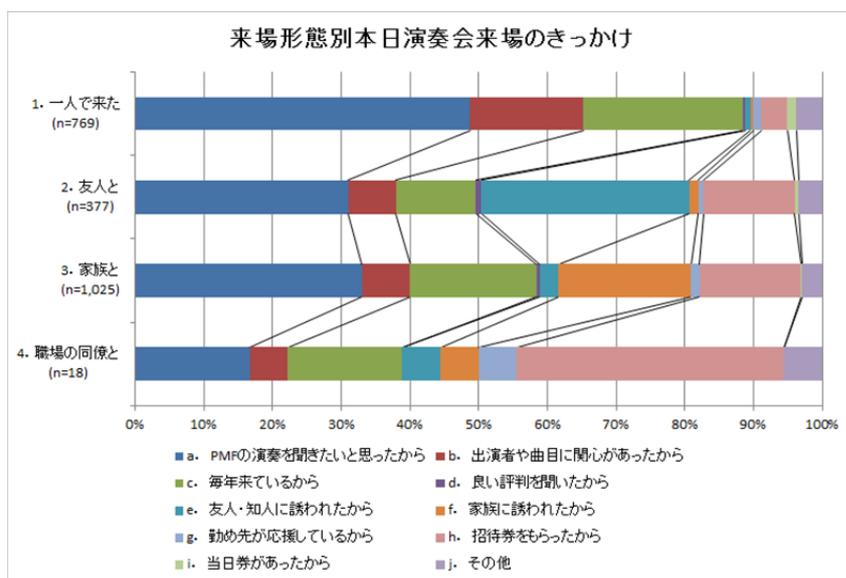
次に初来場時期別に集計した結果が下図である。昨年初めておよび今年が初めてのグル



ープでは招待券入手と友人・知人や家族に誘われての来場が主たるきっかけであるが、PMF の演奏を聞きたいと思ったからが今年初めてで 30%、昨年初めてでは 40%を超す回答である事に留意しておきたい。

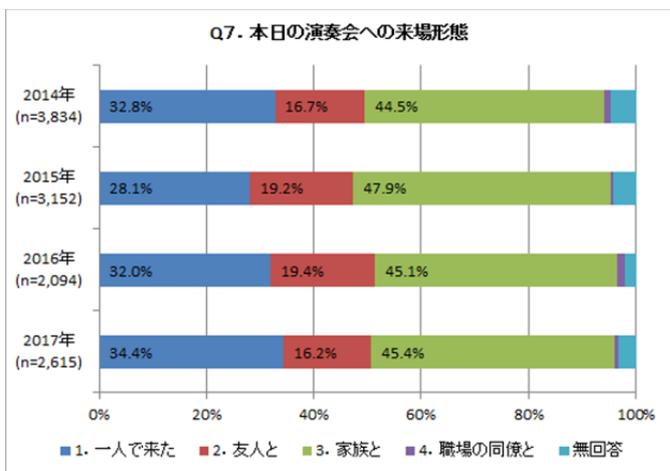
次に次節で述べる来場形態別に来場のきっかけを確認しておく。友人あるいは家族と来場の場合、誘われたから来場が主要な理由に挙げられるのは理解できるが、この整理でも PMF の演奏を聞きたいと思ったという理由が 3 割を占めている。

なお職場の同僚と来場はサンプル数が少なく、この集計結果は参考として示すにとどめる。



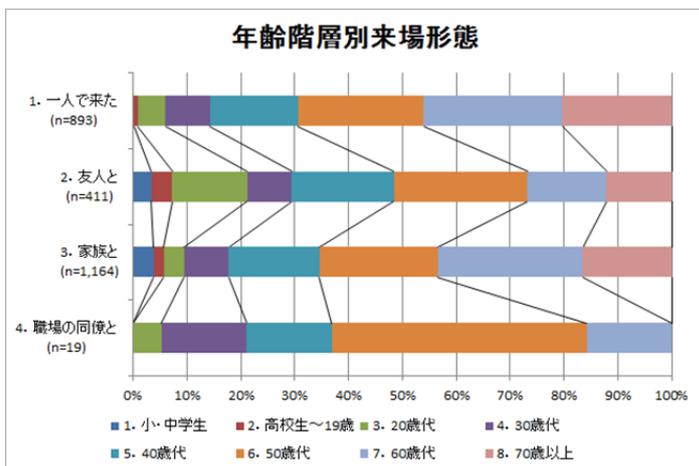
3-7 来場形態

この設問は 2014 年調査から毎年継続して尋ねている設問である。

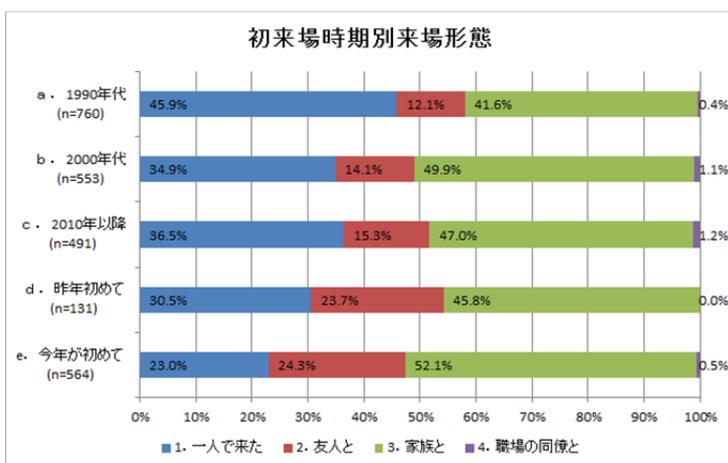


全体として来場形態に大きな変化は見られないが、一人での来場に増加傾向が見られる。

一人で来場または家族とともに来場が一般的な来場形態である。



来場形態の年齢構成をみると、一人で来場は各年齢階層に該当者がいるが、友人とあるいは家族と来場は 40 歳代から 60 歳代が中心となっている。ただし、友人と来場には 20 歳代も多くなっている。

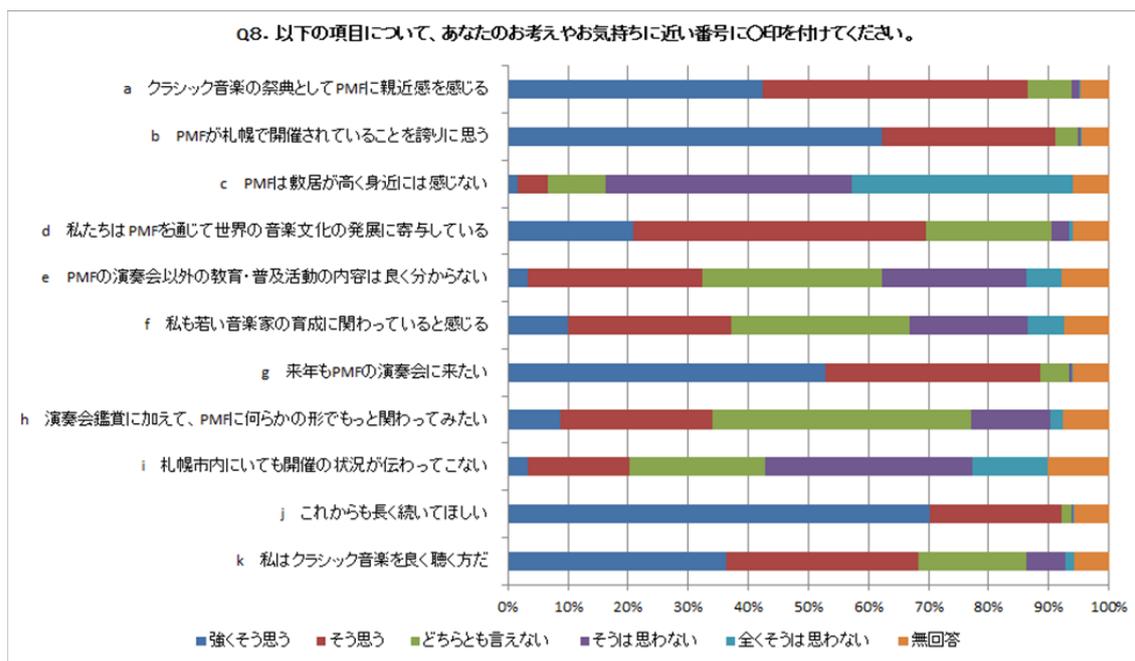


初来場時期別に来場形態を見ると、初来場が近年になるほど、一人で来場の構成比が下がり、かわりに友人と来場が増えている。

3-8 PMF に関する認識

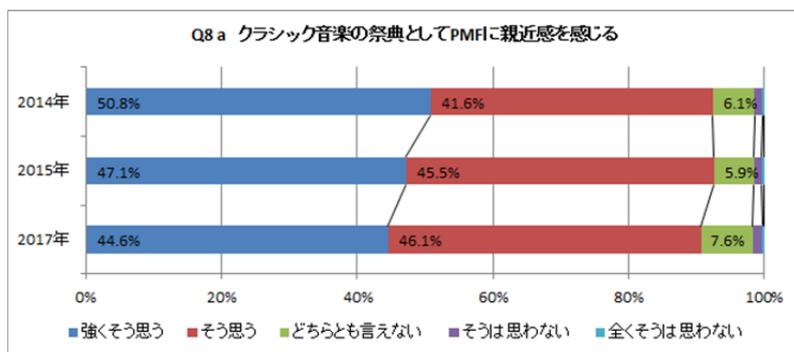
PMF に関する意識を確認する目的で設けている設問で、2014 年、2015 年にも実施した。実施年によって項目数に違いがあるが、本年調査では時系列比較が可能なように以下に示す 11 項目とした。なお、2016 年は調査票の紙面の都合でこの設問は実施していない。

来場者を対象とした調査であるので当然のことであるが、全体として PMF に対して好意的で高い評価が示されている。ただし、項目 f「私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる」では肯定的回答は 4 割弱で、演奏を聴くことが育成につながるとの認識ではないことを示している。



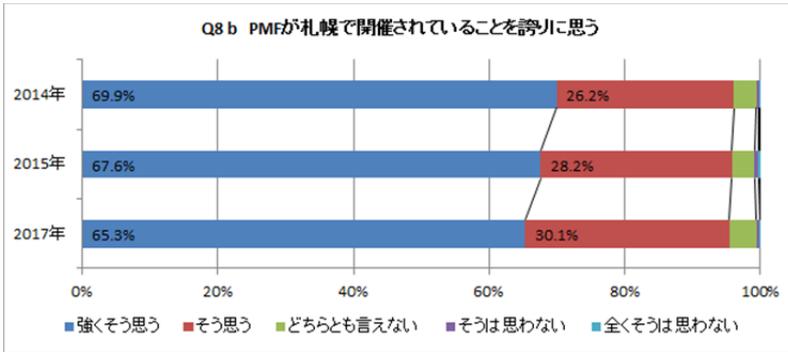
以下、設問の項目ごとに時系列比較で回答の変化を見ていく。なお、以下の比較では項目ごとに 3 回の実施あるいは 2 回の実施である。

a. 親近感を感じる



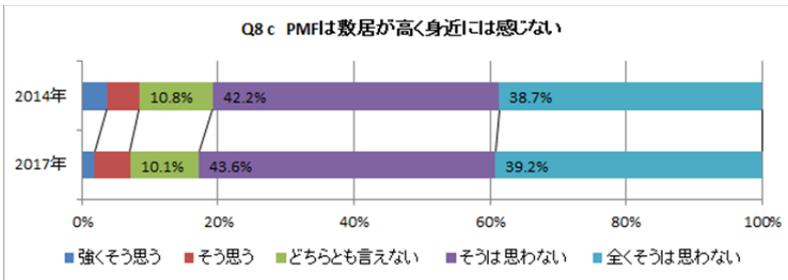
“強くそう思う”の割合が傾向的に下がっている点に留意しておきたい。肯定的意見の割合は大きな変化はない。

b. 誇りに感じる



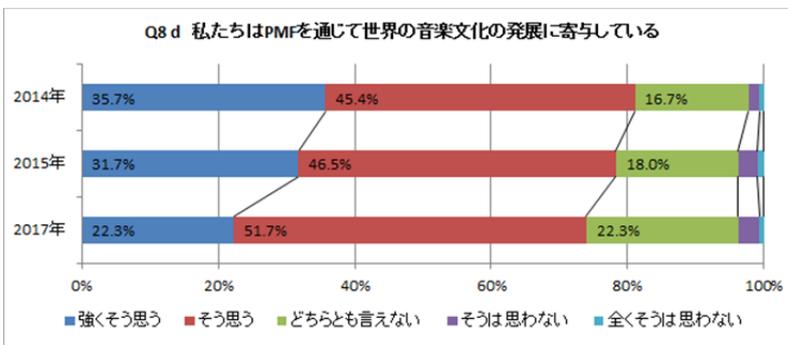
“強くそう思う”の割合が傾向的に下がっているが、肯定的意見の割合は大きな変化はない。否定的意見は極めて少数である。

c. 近寄り難さ



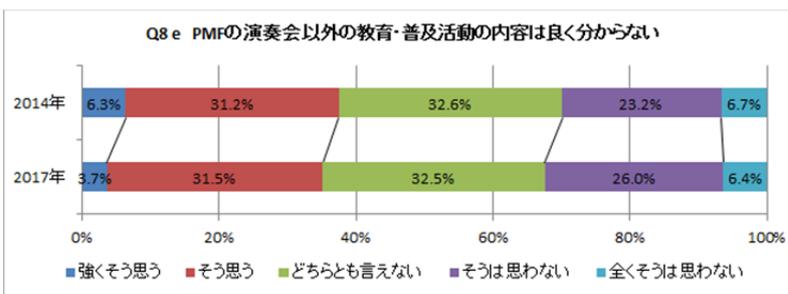
敷居が高いと感じている来場者はごく少数で、減少している。2014年と比較すると、身近に感じないとする回答は減少している。

d. 音楽文化発展への寄与



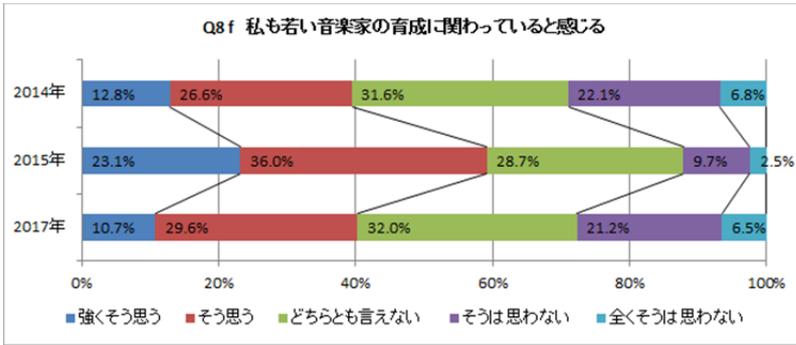
“強くそう思う”の割合が傾向的に下がっているとともに、“どちらとも言えない”の比率が上昇し、肯定的意見の比率が下がっている。

e. 演奏会以外の活動の認知



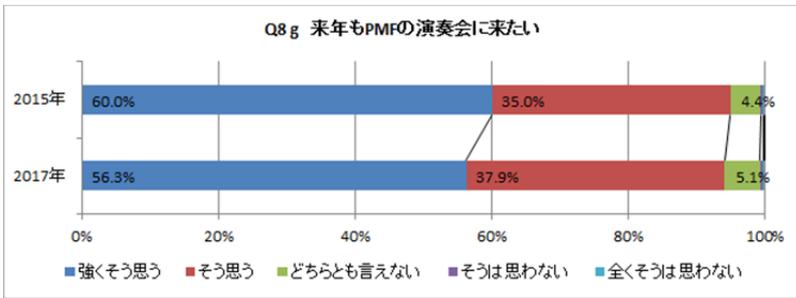
『良く分からない』に対する否定的意見が拡大しており、演奏会以外のPMFの活動に関する情報提供が効果を示していると理解することができる。

f. 育成への関与



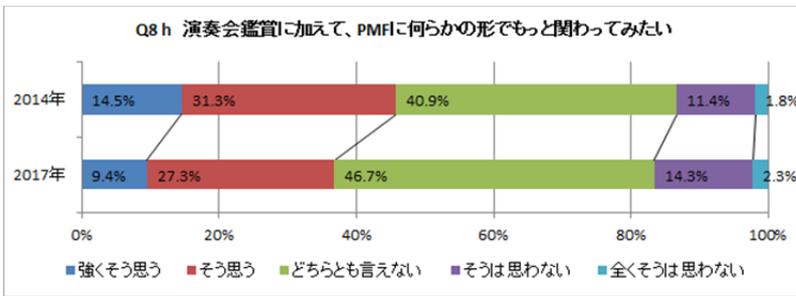
2015年には肯定的意見の比率が大きく上昇したが、本年は2014年の結果と同様の傾向に戻っている。

g. 演奏会来場意向



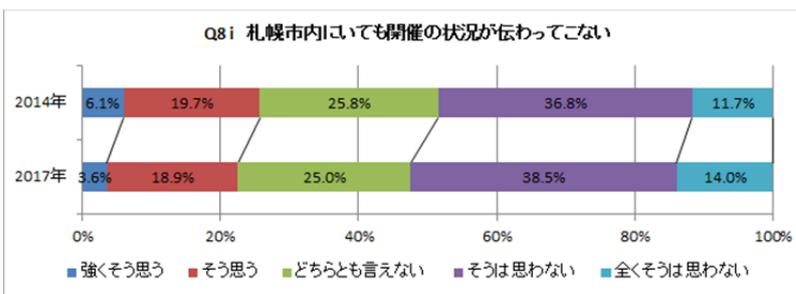
否定的意見はごく僅かではあるが、“強くそう思う”の比率が低下している点を注視したい。

h. 参加意向



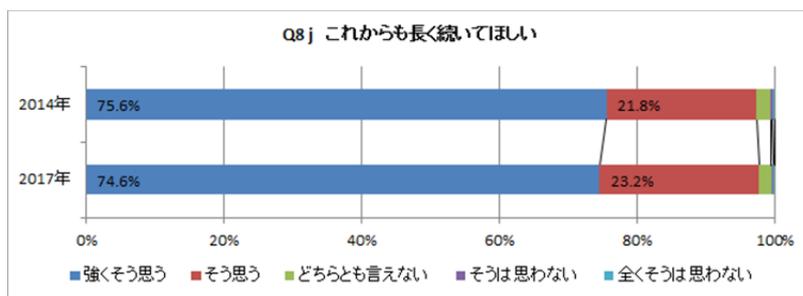
肯定的意見の比率が低下し、中立意見および否定的意見の比率が拡大している。積極的な関与の意欲が減退している。

i. 開催状況の把握



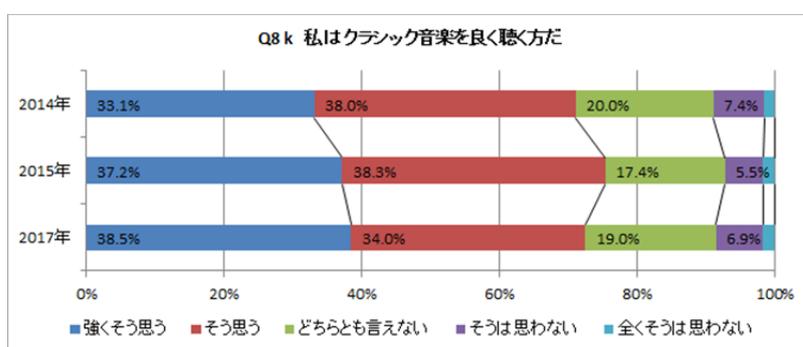
全般的な周知・情報提供活動に関する評価意見である。25周年のアニバーサリーイヤーであった2014年と比較して、開催の状況がよく周知されていると読める結果である。

j. 継続希望



肯定的意見は若干拡大しているものの、“強くそう思う”の比率がごく僅かではあるが、低下している。

k. クラシック音楽

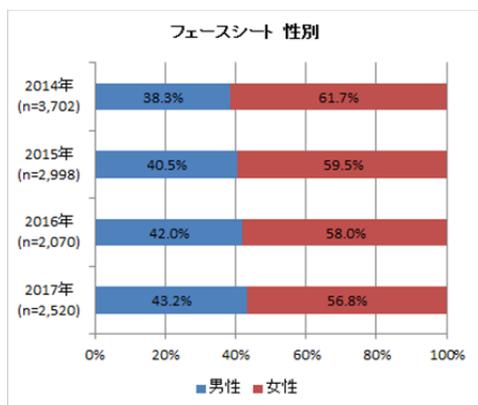


肯定的回答は全体としては大きく変化していないが、強くそう思うとの回答が傾向的に増えている。

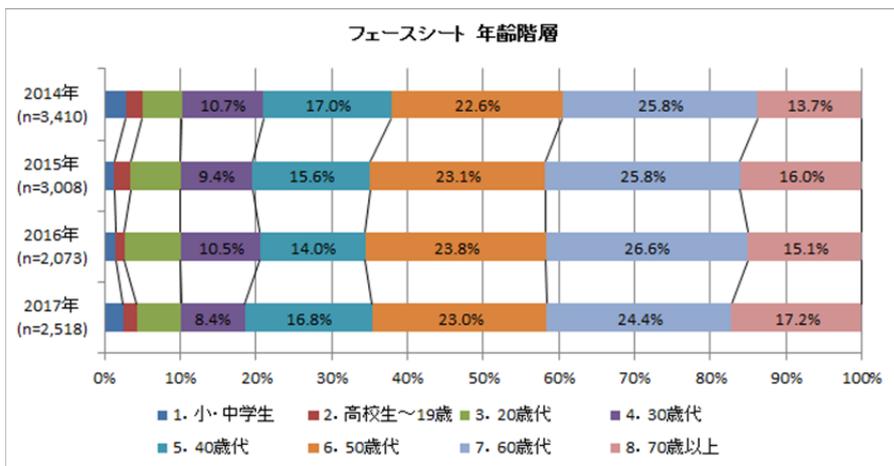
設問各項目の時系列変化をみると、“強くそう思う”という回答の比率が全般的に下がっている。“そう思う”を加えた肯定的回答の比率には顕著な低下は認められないので、PMFに対する意識に変化は無いと言えるが、今後も傾向的な変化があるのかどうか、留意する必要がある

フェースシート

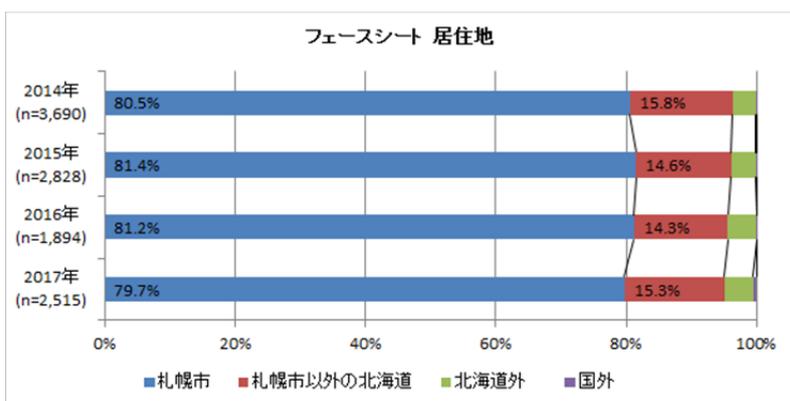
(1) 回答者性別



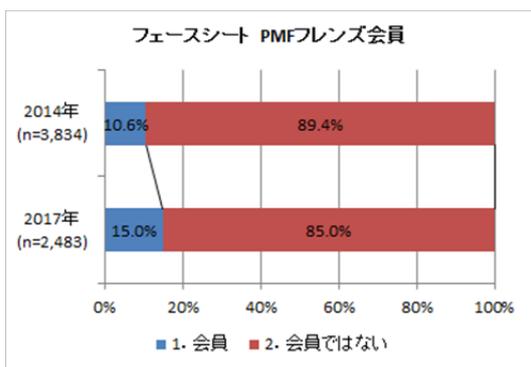
(2) 年齢階層



(3) 居住地

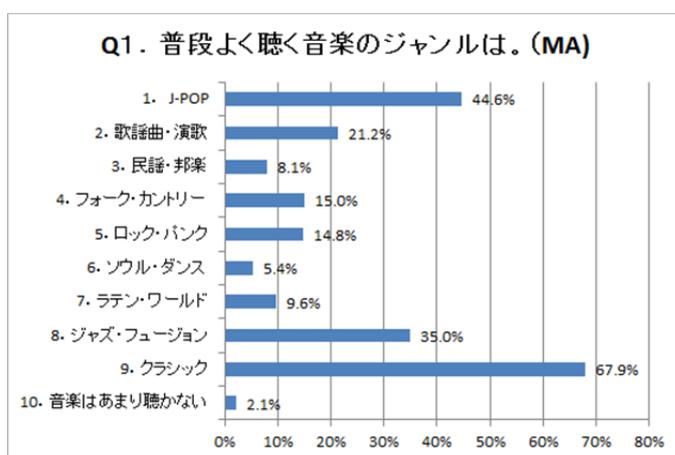


(4) PMF フレンズ会員

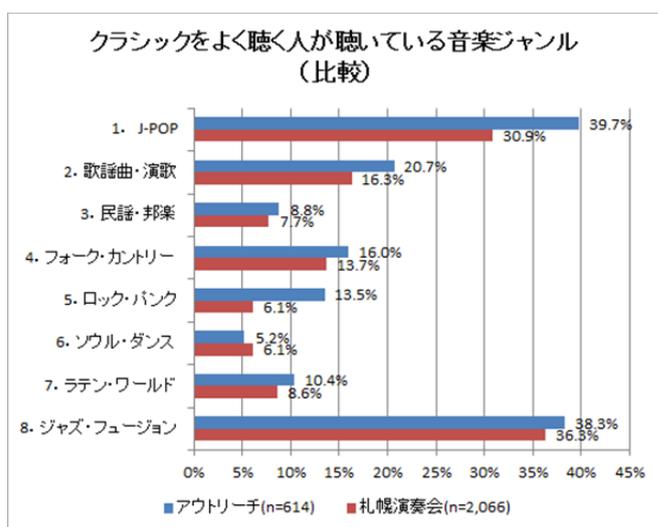


4. 集計結果分析その2 アウトリーチ・コンサート

札幌市内各所で、PMF 修了生を中心とした無料のコンサートが実施された。このコンサートには入場券のようなものは無く、通りがかりの人達が足を止め、ひと時の演奏を楽しんでいくという形式であった。足を止めた方に調査票を配布し、回答協力を願った。コンサートの日程は事前に公開されていたので、このコンサートを目的に開催場所に来られた方もおいでだった可能性はあるが、回答者はたまたま通りかかって聴かれた方が多かったと考えられる⁴。

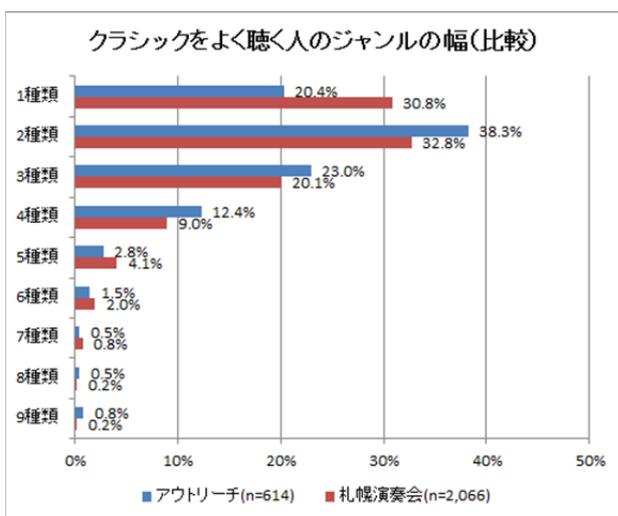


たまたま通りかかったとしても、クラシックに、あるいは音楽に関心があれば立ち止まることは無いであろう。そのことから、良く聴く音楽ジャンルとしてクラシックが68%と突出している。よく聴く音楽ジャンルとしてクラシックに加えてJ-POPとジャズ・フュージョンが選択されている。

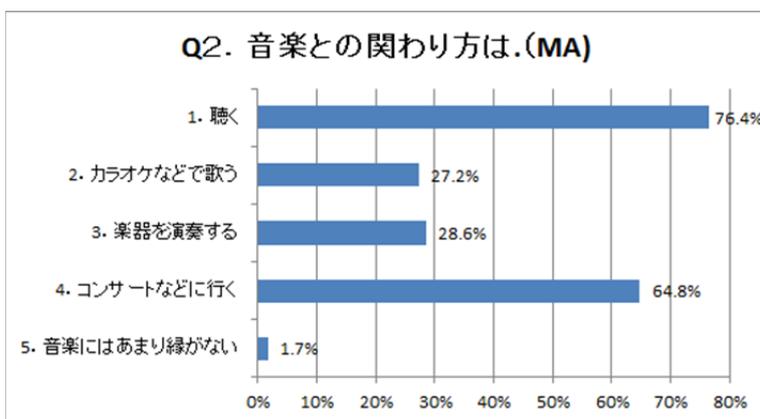


クラシックをよく聴くグループに注目して、他の音楽ジャンルへの関心を確認した。左図は前述3-5-(1)の再掲である。J-POPやロック・パンク系でアウトリーチ・コンサート参加者の回答比率が高く、クラシックとともに幅広い音楽ジャンルに接している。

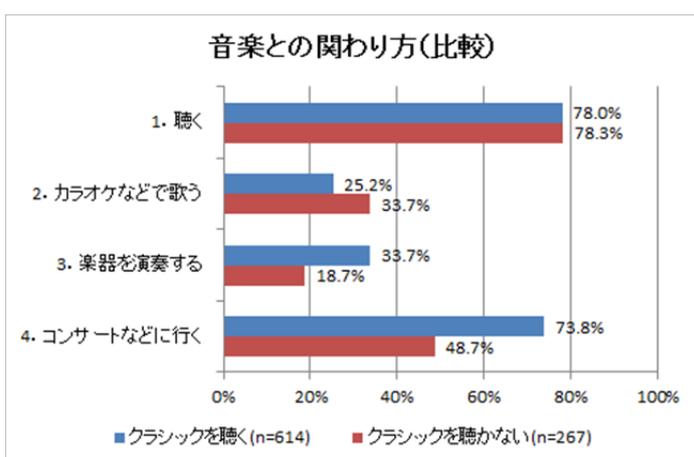
⁴ いくつかの会場での筆者の観察に基づく推測である。



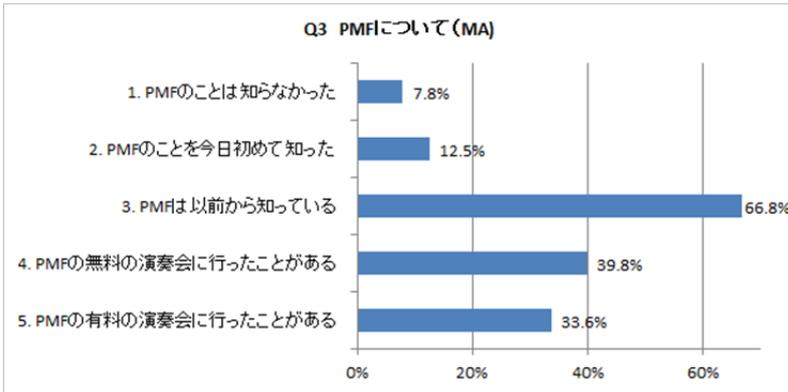
左図も再掲であるが、クラシックのみをよく聴くという回答者は演奏会と比較して10ポイント余り低く、多様な音楽ジャンルを楽しんでいる。札幌演奏会への来場者の方が相対的にクラシックに集中していると解釈することも可能である。



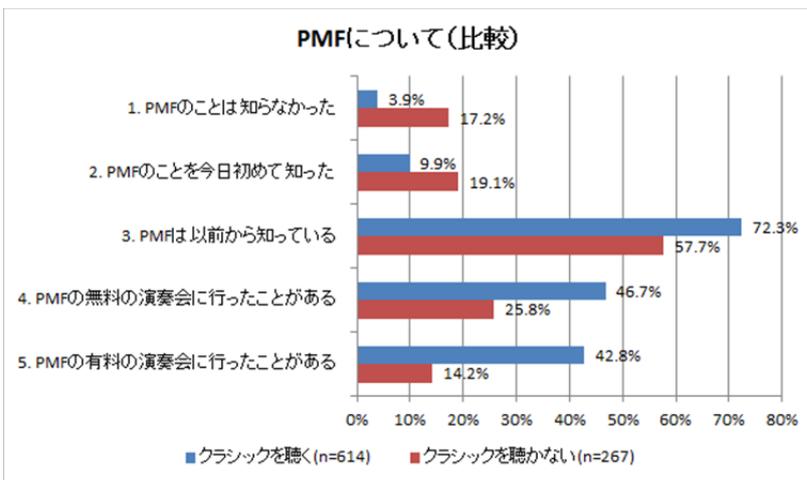
音楽との関わり方では、聴く、コンサートなどに行くという行動が中心であるが、歌う、演奏するという直接音楽活動を行う積極的行動も28%前後の回答である。



アウトリーチ・コンサート参加者を、クラシックをよく聴くグループと聴かないグループに分けて関わり方を比較した。楽器の演奏とコンサートへ行く、の2項目で顕著な差異が認められた。

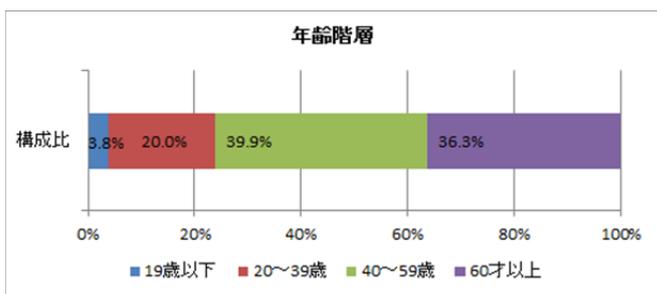
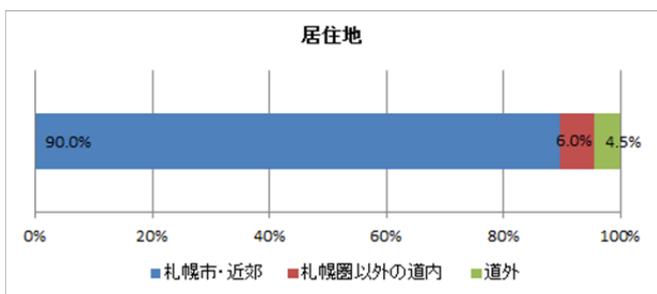
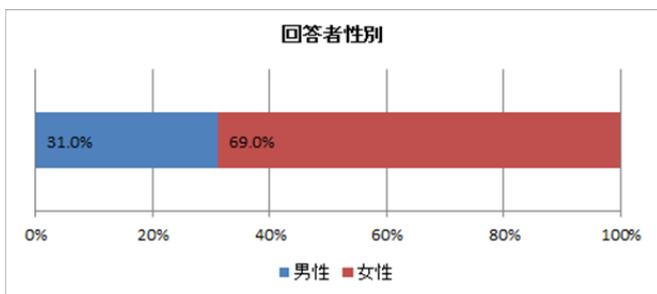


アウトリーチ・コンサートの参加者の PMF との関わりについて尋ねた。PMF を知らなかったという回答は 8%、今日初めて知ったが 13%である。一方、以前から知っているとの回答は 67%という結果である。特にクラシックをよく聴くグループについて見ると、知らなかったが 4%、今日初めて知ったが 10%で、演奏会に行ったことがあるとの回答も 40%を超えている。興味を持って足を止めたということから、何らかの事前の知識を持っていたという推測が出来るので、この結果はある程度のバイアスがあることを前提にしなければならぬが、その点を勘案しても PMF の認知度は比較的高いと言えるだろう⁵。



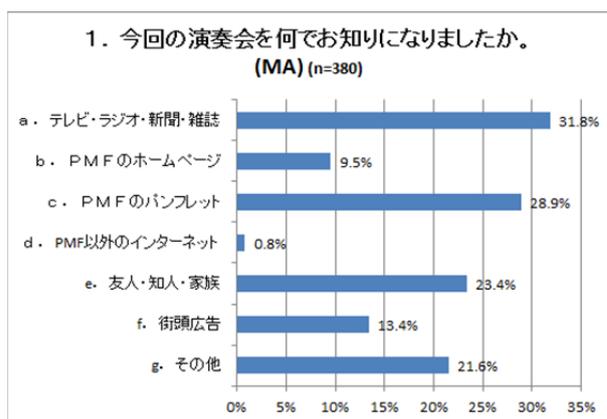
⁵平成 28 年社会生活基本調査（総務省統計局）によると、音楽会などによるクラシック音楽鑑賞の行動率は全国平均で 10.1%、北海道は 8.7%であった。また、CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞は全国平均で 49%、北海道は 47.5%であった。これらの統計調査結果を勘案し判断すると、PMF の認知度あるいは参加度は高いと推測される。

フェースシート



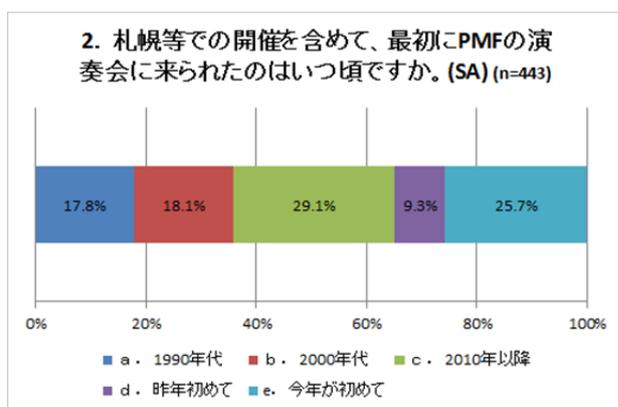
5. 集計結果分析その3 道内演奏会

札幌での演奏会に加えて、2017年は帯広、奈井江、函館、苫小牧で演奏会が開催された。このうち、函館でのPMFアメリカ演奏会と苫小牧でのPMFオーケストラ演奏会の会場調査票を配布した。以下の集計結果は両会場での回収サンプルの合計である。なお、会場ごとに個別に尋ねている設問についてはここでは集計していない。



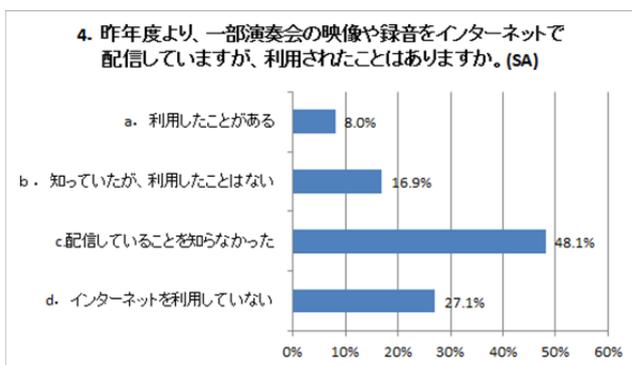
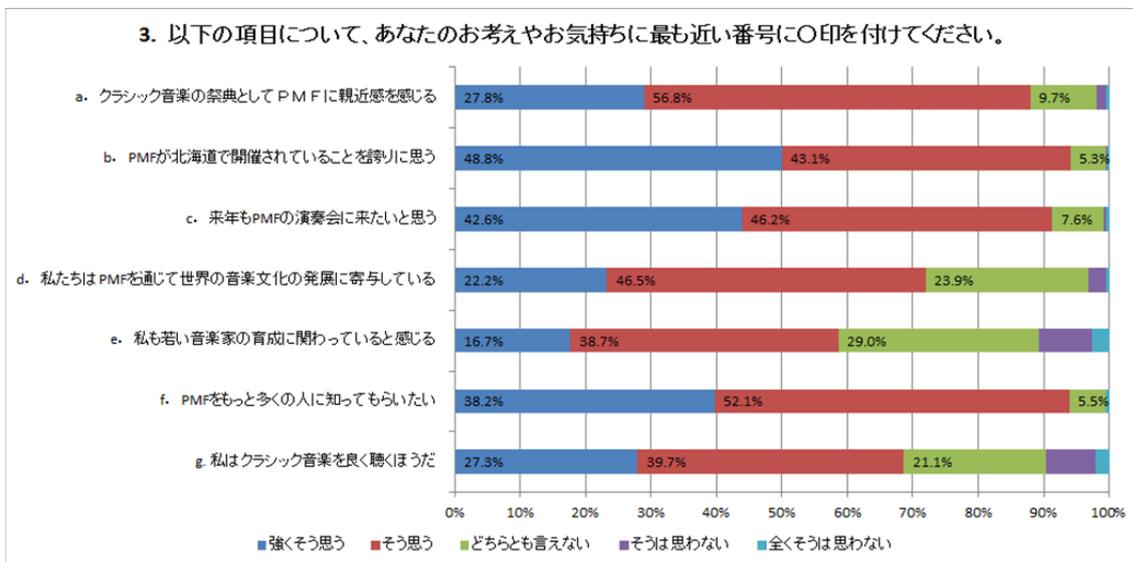
演奏会に関する情報の入手先では、テレビなどのマスメディアが最も高く、32%となり、次いでPMFのパンフレットが29%である。この結果は札幌演奏会への来場者とは大きく異なっている。その他として、函館では音楽鑑賞協会から情報入手、苫小牧では市の広報誌、職場、部活といった書き込みがあった。各会場は会期を通して1回のみでの演奏会である

ので、地元開催の演奏会に関する情報入手には、PMFの公式サイトでスケジュール確認という方法は取りづらいということであろう。

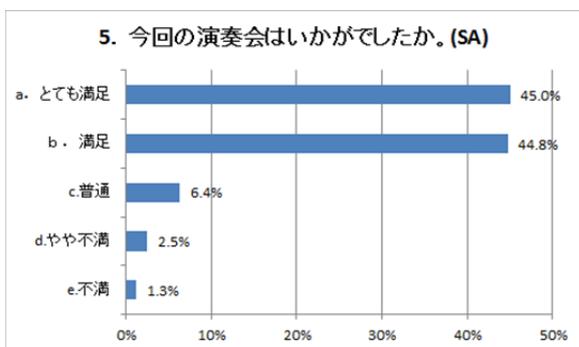


2010年以降が64%であるが、1990年代からあるいは2000年代から来場されている方も多。今年あるいは昨年初めてが比較的多くなっているのは、札幌演奏会と比較して小・中学生の来場が多いことによると考えられる。

札幌演奏会調査と同様の設問で、PMFに関する考えを尋ねている。肯定的意見は全体的に札幌演奏会調査の結果と同様に高いが、“強くそう思う”の比率は総じて札幌より低い結果となっている。

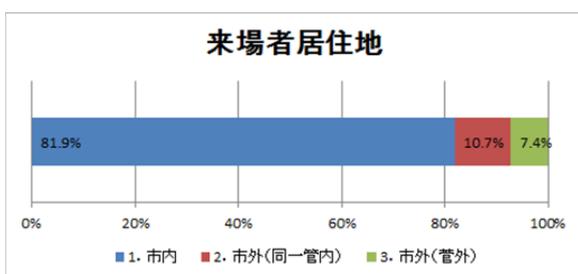
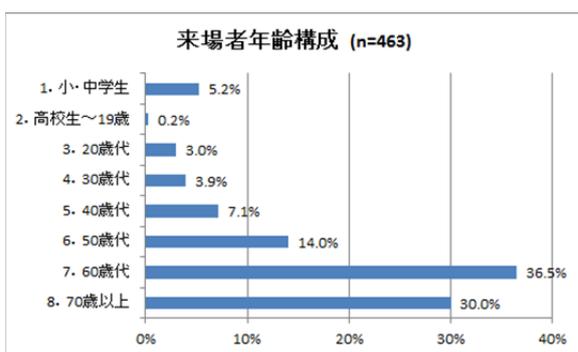
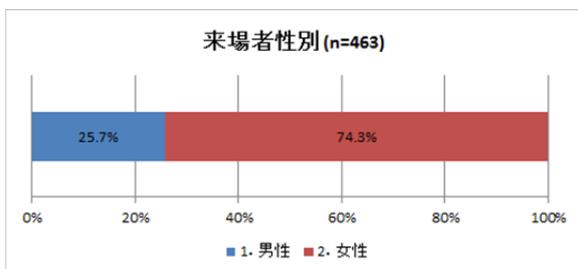


インターネット配信については、利用経験は8%に留まっている。来場者の67%が60歳以上であるので、インターネットを利用していない層が多かった結果である。



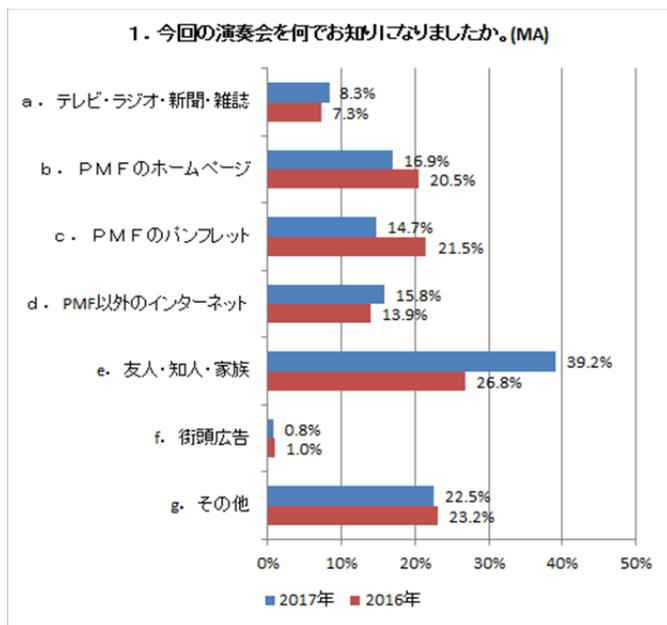
演奏会の満足度は高く、来場者の90%は満足としている。

フェースシート

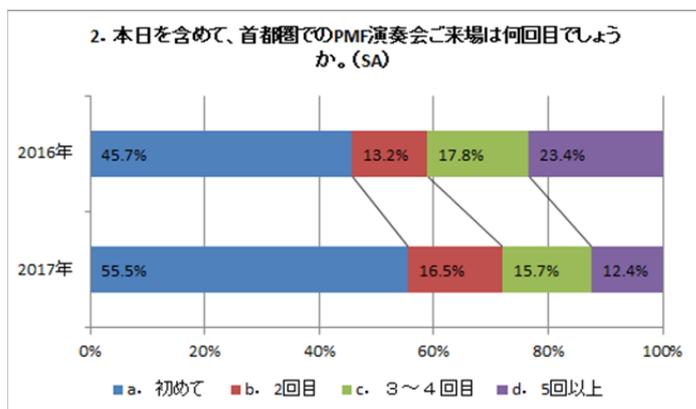


6. 集計結果分析その3 東京・川崎演奏会

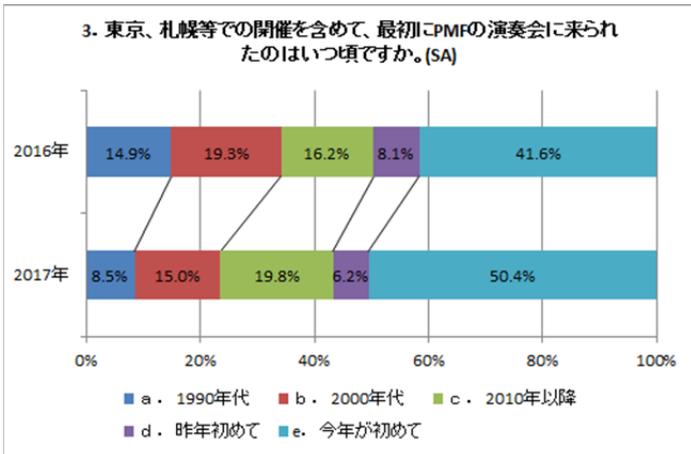
PMF の掉尾を飾る東京での演奏会である。2017 年は川崎市のミューザ川崎シンフォニーホールと東京・上野の東京文化会館大ホールで開催された。



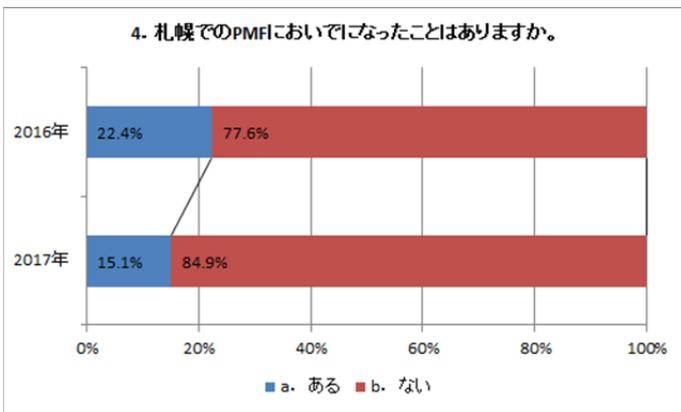
演奏会情報の入手先は、友人・知人・家族が 39%と突出している。2016 年と比較しても大きく増加している。今回初めて来場が半数を超えたためにこのような結果となったと推測される。



今回が初めての来場とする回答が、2016 年と比較して 10 ポイント弱増加し、56%となった。それに対して 5 回以上の来場者は 11 ポイント減少している。昨年のサントリーホールから東京文化会館に会場が変更になったことによる影響が、あるいはあったかもしれない。

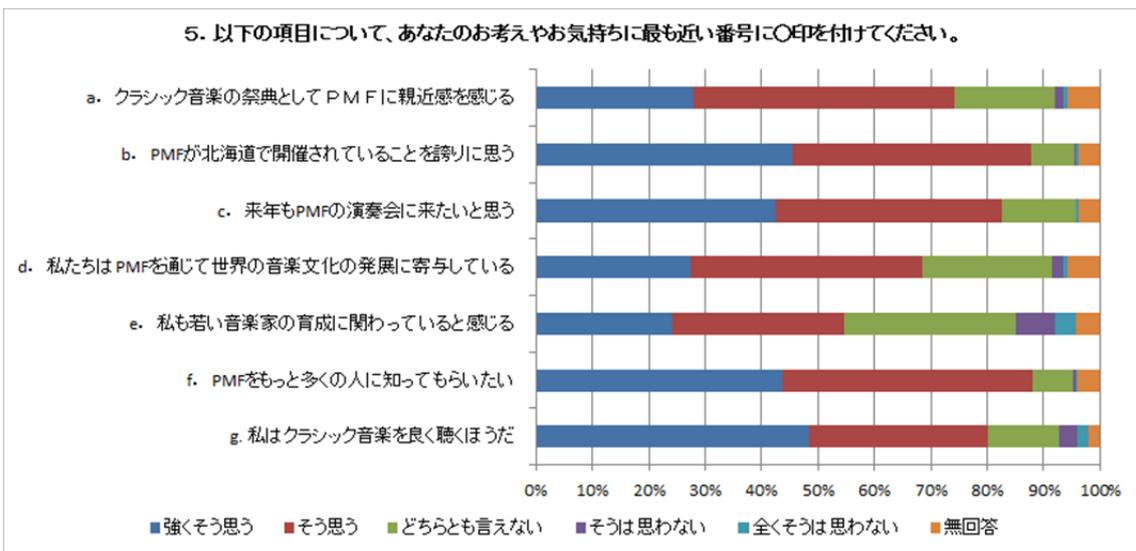


今年初めて参加が半数を超えている。また、2010年以降に参加が4ポイント弱増えている。来場者の76%が最近7年程度の間、PMFに触れることになった方たちである。あるいは来場者の世代交代の兆しであろうか。

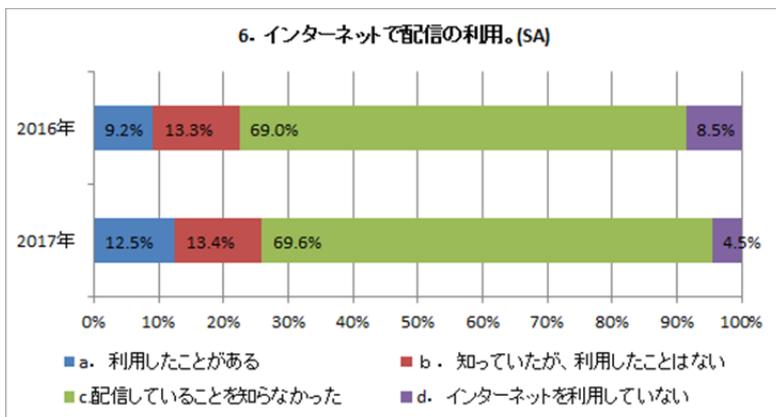


上記の初来場時期の結果と関連すると思われるが、札幌への来場経験有の比率が2016年と比較して減少した。

PMFに関する考えを尋ねている設問で、項目は札幌演奏会や道内演奏会と共通のものがある。全体的な傾向は札幌演奏会の結果と同じだが、「私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる」に関して、札幌演奏会と比較して10ポイント以上肯定的意見が高くなって

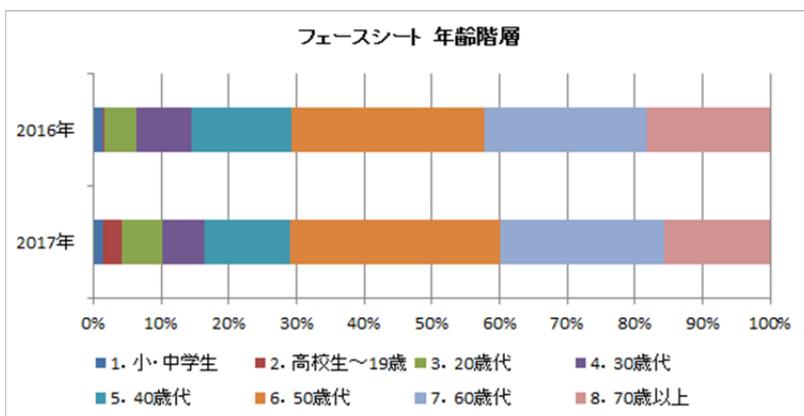
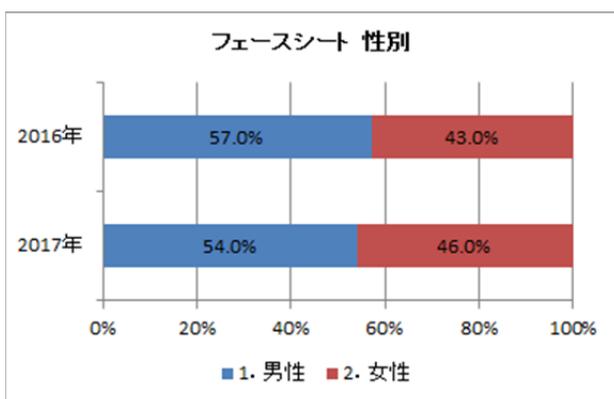


いる点に留意しておきたい。



インターネット配信を実際に利用した経験を有するとする回答は2016年比で着実に増えている。しかし、認知していないとの回答は減少していない。

フェースシート



7. まとめ 2017 年調査から得られる示唆と考察

① 幅広い支持を如何に獲得するか

本年まで 4 回にわたって来場者調査を実施することができ、多くの知見を蓄積できた。これはひとえに Kitara の座席で、あるいは芸術の森の芝生の上で真剣にお答えいただいた多くの来場者のご協力のお蔭である。記して改めて感謝の意を表したい。

PMF が長く続いていくために必要な条件の一つは、多くの方のサポートである。とりわけ開催地の札幌、北海道の市民、道民のサポートが決定的な意味を持つ。演奏会来場者は、何回の演奏会が企画されるかで最大数は決まってしまう。しかし、演奏会来場者の外側に PMF を知り、なにがしかの関心をよせる幅広いサポーターを持つことができれば、永続の条件は満たされてくる。そして、そのようなサポーターは演奏会来場者の予備軍である。実際これまでの 4 回の調査では毎年来場者の 22%程度は初めての来場であったことから、この予備軍は現在でも相当に分厚いものと推測できる。しかし、来場者だけではなくサポーター層をも視野に入れた実施を心掛けないと、サポーター層は細ってしまうことになる。

② 細かな改善努力を如何に継続するか

これまでもこの調査に寄せられた意見をヒントに、運営に関して改善が図られるということがあった。改善の方向は、よりスムーズに、より効率的に、より快適に、など様々な視点がありうる。PMF に関わるすべての関係者が改善努力を継続するという姿勢を持つことで、PMF が全体として環境変化に対して柔軟性を持つことになる。

③ 変わることで変わらないという視点

今回が第 28 回の PMF であった。28 年の歴史を積み重ねてきたということだが、同時に時間の経過は PMF を取り巻く様々な条件が変化してきたことを意味している。そして、今後を見通すと間違いなく変化は続いていく。現在、PMF に対する来場者の支持は揺るぎないものがある。このことは、様々な実験を試みることが許容されていること意味すると考えることができる。さらに、2018 年はバーンスタイン生誕 100 周年、2019 年は第 30 回とアニバーサリーイヤーが続く。この 2 年間は平常年とは異なる特別なことを試みる機会でもある。環境変化を先取りして変わることで、PMF が大事にするその根幹をより強くすることが考えられてよい。

<付属資料>

2017年調査 調査票

札幌アウトリーチ・コンサート調査票

札幌演奏会調査票

東京・川崎演奏会調査票

函館演奏会調査票

苫小牧演奏会調査票

音楽とのふれあいに関する調査

PMF組織委員会の活動の参考とするため、
皆さまの音楽との関わりについてお尋ねしています。



Q1 普段よく聴く音楽のジャンルは？(いくつでも)

- | | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|--------------------|--------------------------|
| 1
J-POP | 2
歌謡曲
演歌 | 3
民謡
邦楽 | 4
フォーク
カントリー | 5
ロック
パンク |
| 6
ソウル
ダンス | 7
ラテン
ワールド | 8
ジャズ
フュージョン | 9
クラシック | 10
音楽は
あまり
聴かない |

Q2 音楽との関わり方は？(いくつでも)

- | | | | | |
|---------|--------------------|------------------|---------------------|--------------------------|
| 1
聴く | 2
カラオケ
などで歌う | 3
楽器を
演奏する | 4
コンサート
などに行く | 5
音楽には
あまり
縁がない |
|---------|--------------------|------------------|---------------------|--------------------------|

Q3 PMF (パシフィック・ミュージック・フェスティバル) について(いくつでも)

- | | | | | |
|--------------------------|------------------------------|----------------------------|--|--|
| 1
PMFの
ことは
知らない | 2
PMFのことを
今日初めて
知った | 3
PMFは
以前から
知っている | 4
PMFの
無料の
演奏会に
行ったこと
がある | 5
PMFの
有料の
演奏会に
行ったこと
がある |
|--------------------------|------------------------------|----------------------------|--|--|

あなたの性別

- | | |
|---------|---------|
| 1
男性 | 2
女性 |
|---------|---------|
- #### あなたの居住地
- | | | |
|------------------|-------------------|---------|
| 1
札幌市
及び近郊 | 2
札幌圏以外
の道内 | 3
道外 |
|------------------|-------------------|---------|

あなたの年齢

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1
19歳以下 | 2
20～39歳 | 3
40～59歳 | 4
60歳以上 |
|------------|-------------|-------------|------------|

ご協力
ありがとうございました。
回収箱に
お入れくだ
さい。

2017年 PMF演奏会に関する来場者アンケート

ご協力を
お願いします



PMFはこれまで多くの方々に支えられて歴史を積み重ねてきました。今後、さらにPMFを発展させていくために皆様の率直なご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。この調査は、公益財団法人PMF組織委員会が実施しています。

Q1 PMFの演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ^a 1990年代 ^b 2000年代 ^c 2010年以降 ^d 昨年が初めて ^e 今年が初めて

SQ:「今年が初めて」とお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

- ^a 1990年代 ^b 2000年代 ^c 2010年以降 ^d 昨年初めて知った ^e 今年になってから

Q2 PMFについてお知りになりたいことがあるとき、どのような情報源を利用されますか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ^a テレビ ^b 新聞 ^c PMFのホームページ ^d PMF月刊メール配信サービス ^e PMFのパンプレット
^f Facebook、TwitterなどのSNS ^g 友人・知人 ^h 街頭広告 ⁱ 広報さっぽろ ^j 音楽雑誌
^k インターネットのクラシック音楽サイト ^l その他(具体的にお教えてください _____)

SQ:「PMFのホームページ」をお選びの方にお尋ねします。PMFのホームページご利用の状況をお教えてください。

- (1) 直近1カ月のご利用頻度 ^a 週1回以上 ^b 週1回ほど ^c 月2~3回 ^d 月1回程度
(2) よく利用されるページ ^a スケジュール確認 ^b チケット購入 ^c ニュース ^d 読みのもの
(3) ご利用の多い時期 ^a PMF開催前 ^b PMF開催期間中 ^c PMF開催後 ^d 年間通して

Q3 インターネット配信されているPMFの一部演奏会の映像や録音を視聴されたことはありますか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ^a 視聴したことがある ^b 知っていたが、視聴したことはない ^c 配信していることを知らなかった

Q4 PMFについての感想や意見を話したり発信することはありますか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ^a 家族・友人と話す ^b 職場・学校で話す ^c インターネットで発信する ^d 文章を書いて公表する ^e 発信することはない

Q5-1 普段どのような音楽をよくお聴きになりますか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ^a J-POP ^b 歌謡曲・演歌 ^c 民謡・邦楽 ^d フォーク・カントリー ^e ロック・パンク
^f ソウル・ダンス ^g ラテン・ワールド ^h ジャズ・フュージョン ⁱ クラシック ^j 音楽はあまり聴かない

Q5-2 音楽との関わり方はどのようなものでしょうか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ^a 聴く ^b カラオケなどで歌う ^c 楽器を演奏する ^d コンサートなどに行く ^e 音楽にはあまり縁が無い

Q5-3 クラシック音楽をお聴きになるようになったのはいつ頃ですか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ^a 小学校前 ^b 小・中学校の頃 ^c 高校・大学の頃 ^d 社会人になってから ^e 今もそれほど聴かない

Q5-4 クラシック音楽をお聴きになるようになったきっかけはどのようなことでしょうか。(最もあてはまる項目一つに✓印を付けてください)

- ^a 楽器を習い始めて ^b 音楽の授業で聴いて ^c 吹奏楽・オーケストラのメンバーになって ^d 友人の影響で ^e 親・兄弟・親戚の影響で
^f テレビドラマや映画で触れて ^g 行きつけの店がいつも流していて ^h あるアーティストのファンになって
ⁱ その他(具体的にお教えてください _____)

うら面の設問にも
お答えください。

2017 年度 PMF 演奏会に関する来場者調査

本日は、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。今後さらに PMF を発展させていくために皆様のご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。

1. 今回の演奏会を何でお知りになりましたか。該当する項目をすべてお選びください。

- a. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 b. PMFのホームページ c. PMFのパンフレット d. PMF 以外のインターネット
e. 友人・知人・家族 f. 街頭広告 g. その他(具体的にお教えてください _____)

2. 本日を含めて、首都圏での PMF 演奏会ご来場は何回目でしょうか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 初めて b. 2 回目 c. 3～4 回目 d. 5 回以上

3. 東京、札幌等での開催を含めて最初に PMF 演奏会に来られたのはいつですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990 年代 b. 2000 年代 c. 2010 年以降 d. 昨年初めて e. 今年が初めて

4. 札幌での PMF においでになったことはありますか。 a. ある b. ない

5. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	う強く そう思 う	そう 思う	言え ない	どち ちら とも	な い は 思 わ ない	全 く 思 わ ない
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5	
b. PMF が日本で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5	
c. 来年も PMF の演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5	
d. 私たちは PMF を通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5	
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5	
f. PMF をもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5	
g. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5	

6. 昨年度より、一部演奏会の映像や録音をインターネットで配信していますが、利用されたことはありますか。該当する項目を一つお選びください。(今年度のコンサートも後日配信する予定です。)

- a. 利用したことがある b. 知っていたが、利用したことはない c. 配信していることを知らなかった
d. インターネットを利用していない

7. PMF に関してご意見等がありましたら、ご記入をお願いします。

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。

あなたは 男性 女性

あなたの年齢は 小・中学生 高校生～19 歳 20 歳代 30 歳代 40 歳代

50 歳代 60 歳代 70 歳以上

ご協力をありがとうございました。この用紙は「アンケート回収箱」にお入れください。

調査実施 公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

2017年度 PMF演奏会に関する来場者調査

本日は、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。今後さらにPMFを発展させていくために皆様のご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。

1. 今回の演奏会を何でお知りになりましたか。該当するものをすべてお選びください。

- a. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 b. PMFのホームページ c. PMFのパンフレット d. PMF以外のインターネット
e. 友人・知人・家族 f. 街頭広告 g. その他(具体的にお教えてください _____)

2. 札幌等での開催を含めて、最初にPMFの演奏会に来られたのはいつ頃ですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990年代 b. 2000年代 c. 2010年以降 d. 昨年初めて e. 今年が初めて

3. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	う強く そう思 う	そう 思う	言ど えち なら ない も	なそ うは 思 わ	全 く 思 わ な い は
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b. PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c. 来年もPMFの演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5
g. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5

4. インターネット配信されているPMFの一部演奏会の映像や録音を視聴されたことはありますか。該当する項目を一つお選びください。(今年度のコンサートも後日配信する予定です。)

- a. 利用したことがある b. 知っていたが、利用したことはない c. 配信していることを知らなかった
d. インターネットを利用していない

5. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても満足 b. 満足 c. 普通 d. やや不満 e. 不満

6. 今回の演奏会の感想をお聞かせください。

[_____]

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。

あなたは 1. 男性 2. 女性

あなたは函館音楽鑑賞協会の会員ですか 1. 会員 2. 会員ではない

あなたの年齢は 1. 小・中学生 2. 高校生～19歳 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代

6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳以上

あなたのお住まいは 1. 函館市内 2. 函館市外(渡島管内) 3. 函館市外(渡島管外)

ご協力をありがとうございました。この用紙は「アンケート回収箱」にお入れください。

2017 年度 PMF 演奏会に関する来場者調査

本日は、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。今後さらに PMF を発展させていくために皆様のご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。

1. 今回の演奏会を何でお知りになりましたか。該当するものをすべてお選びください。

- a. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 b. PMFのホームページ c. PMFのパンフレット d. PMF 以外のインターネット
e. 友人・知人・家族 f. 街頭広告 g. その他(具体的にお教えてください _____)

2. 札幌等での開催を含めて、最初に PMF の演奏会に来られたのはいつ頃ですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990 年代 b. 2000 年代 c. 2010 年以降 d. 昨年初めて e. 今年が初めて

3. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう 思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは思 わない	全くそう は思わ ない
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b. PMF が北海道で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c. 来年も PMF の演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5
d. 私たちは PMF を通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
f. PMF をもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5
g. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5

4. インターネット配信されている PMF の一部演奏会の映像や録音を視聴されたことはありますか。該当する項目を一つお選びください。(今年度のコンサートも後日配信する予定です。)

- a. 利用したことがある b. 知っていたが、利用したことはない c. 配信していることを知らなかった
d. インターネットを利用していない

5. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても満足 b. 満足 c. 普通 d. やや不満 e. 不満

6. 今回の演奏会の入場料はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても高い b. 高い c. ちょうど良い d. 安い e. とても安い

7. 今回の演奏会の感想をお聞かせください。

[_____]

8. 今後、どのような演奏を聴いてみたいですか。

[_____]

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。

あなたは 1. 男性 2. 女性

あなたの年齢は 1. 小・中学生 2. 高校生～19 歳 3. 20 歳代 4. 30 歳代 5. 40 歳代
6. 50 歳代 7. 60 歳代 8. 70 歳以上

あなたのお住まいは 1. 苫小牧市内 2. 苫小牧市外(胆振管内) 3. 苫小牧市外(胆振管外)

ご協力をありがとうございました。この用紙は「アンケート回収箱」にお入れください。